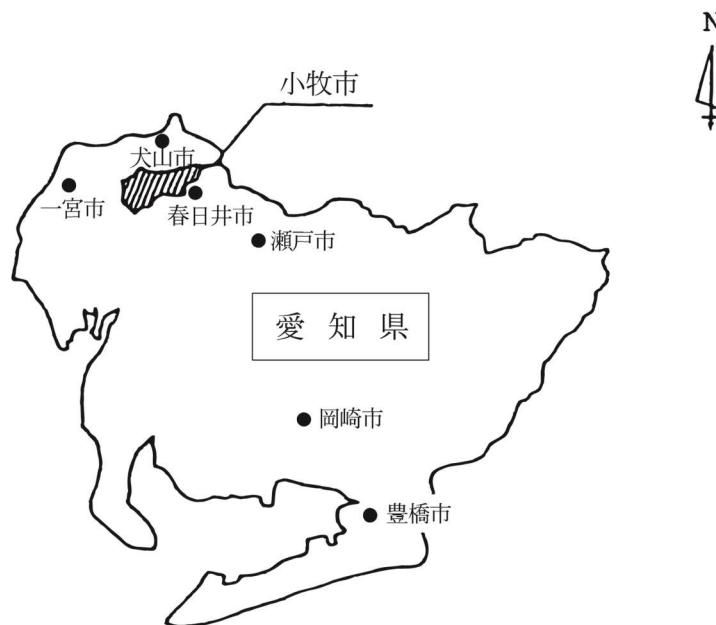


第1 小牧市の概要

第1 小牧市の概要

- (1) 市制施行 昭和30年1月1日
- (2) 市役所所在地 小牧市堀の内三丁目1番地
東経 136度54分
北緯 35度17分
- (3) 面積 62.81 平方キロメートル
東西 14.82 キロメートル
南北 9.22 キロメートル



昭和30年1月、小牧町・味岡村・篠岡村の1町2村の合併により県下21番目の市として市制を施行し、その後昭和38年9月には北里村を編入して現在の市域を持つ小牧市は、愛知県の北西部、名古屋市の北約15kmに位置している。

市制施行後、東名・名神高速道路及び中央自動車道の結節点という陸上交通の要衝と空の玄関口・県営名古屋空港を併せ持つ地の利に恵まれ、田園都市から内陸工業都市・尾張北部の中核都市へと飛躍的な発展を続けている。

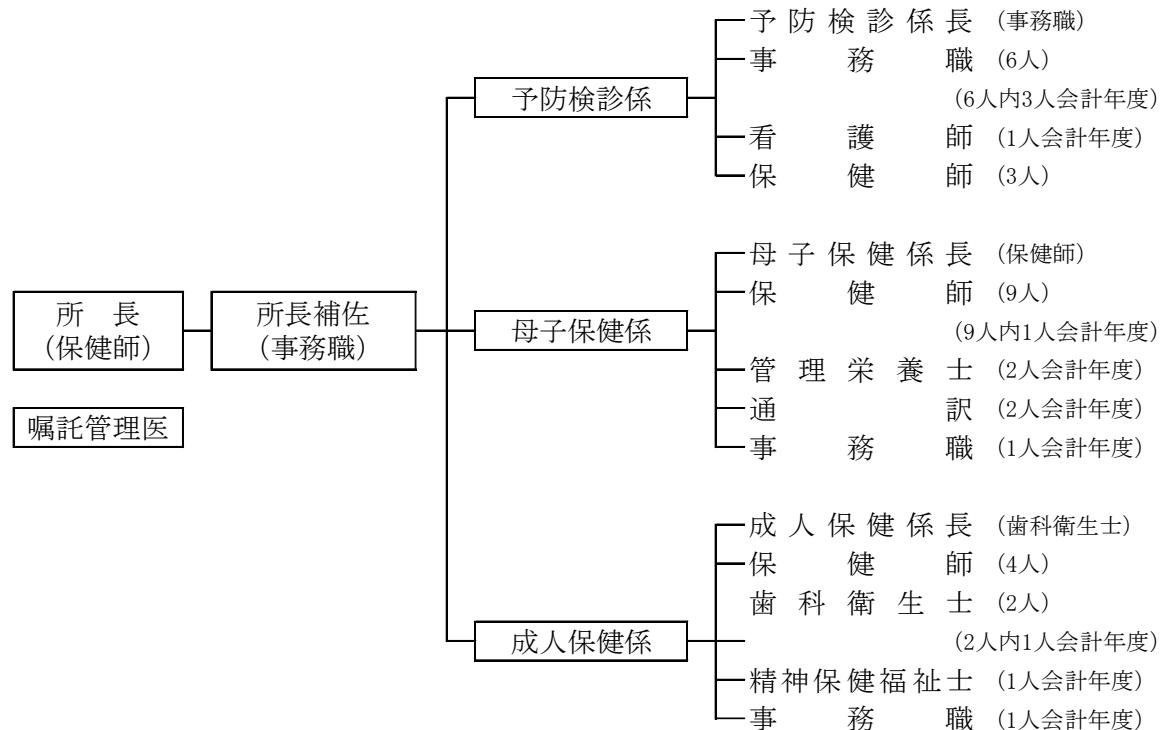
現在、小牧市は、「こども夢・チャレンジNo.1都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」をまちづくりの機軸として掲げ、更に“誰一人取り残さない”持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGsや、ダイバーシティの考えも取り入れて、まちづくりを進めているところであります。

第2 保健センターの機構及び事務分掌

第2 保健センターの機構及び事務分掌

1 構成 (職員数35人内1人嘱託・13人会計年度)

※令和5年4月末現在



2 事務分掌

	予防検診係	母子保健係	成人保健係
成人保健	1 健康手帳交付 2 健康診査 3 がん検診 4 肝炎ウイルス検診 5 骨粗しょう症検診 6 結核検診 7 予防接種 8 休日急病診療所		1 健康教育 2 健康相談 3 訪問指導 4 ヤング健診 5 歯周病予防個別健診 6 いきいき世代個別歯科健診 7 口腔がん検診
母子保健	1 予防接種 2 小牧市中学生ピロリ菌検査事業	1 乳幼児健康診査 2 健康教育 3 保育・教育現場との連携事業 ①歯みがき教室 (保育園・幼稚園・こども園) ②園児対象う蝕対策普及啓発活動 ③8020歯っぴースマイル!歯みがき教室 (小学校) ④生と性に関するカリキュラム 4 相談事業 ①育児相談 ②母乳相談 ③電話相談 ④発達相談 ⑤運動発達相談 5 訪問事業 6 妊婦個別歯科健診	
地域保健組織育成		1 保健連絡員活動「赤ちゃん訪問」	1 保健連絡員養成 2 保健連絡員教育・学習 3 保健連絡員・O B活動 4 食生活改善推進員育成
その他	1 感染症予防 2 歯の健康センター 3 介護保険地域支援事業(介護予防事業) 4 不妊不育治療等助成事業 5 健康こまきいきいきプラン推進 6 自殺対策事業 7 骨髄提供者等助成事業 8 小牧市がん患者医療用補整具購入費助成金 9 若年がん患者在宅療養助成金		

第3 保健事業の変遷

第3 保健事業の変遷

年度	成 人・老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
昭和40年	・農夫症対策開始	・新生児全戸訪問 (国保対策)		・保健婦3人	63,365
41年	・そさいグループ健診開始 ・老人クラブ保健指導開始 ・高血圧料理講習会開始 ・健康相談室開催				64,091
42年			・腸・パラチフス廃止 ・百日咳・ジフテリアに 破傷風が入り二種混合 から三種混合に変わる		67,052
43年	・胃がん検診開始		・種痘切皮法から多圧法 に変わる ・B C G切皮法から管針 法に変わる	・看護婦1人	71,900
44年	・そさいグループ健診終了 ・子宮がん検診開始		・ハイジエッタ使用開始 (61年まで)		75,962
45年	・農夫症対策終了	・赤ちゃん教室開始 ・乳児健診開始(1回)	・問診票使用開始 ・予防接種事故救済制度 始まる	・看護婦2人体制 ・保健婦4人体制	79,842
46年	・糖尿病料理講習会開始	・乳児健診(2回) ・2歳児講習会開始	・日本脳炎1歳から3歳、 日本脳炎小2、中1、 55~64歳に改正	・消毒室開設	85,006
47年					88,537
48年	・成人病健康診査開始				92,697
49年		・1歳児健診開始	・ツベ・BCG 0~4歳、小 学1年、中1・2年に改正 中2・小2は前年BCGのみ		95,884
50年	・保健衛生推進協議会設置	・乳児健診(4回)	・百日咳中止 ・種痘廃止		98,528
51年	・住民健診に血圧、検尿を 導入	・2歳児講習会終了	・二種混合3期入学前廃止		99,566
52年		・1歳児健診終了 ・1歳6か月児健診10回	・風疹開始(中学3年女子)		100,236
53年	・小牧市民健康づくり推 進協議会設置	・1歳6か月児健診24回	・風疹中学1・2年女子 に改正 ・日脳55歳~64歳中止 ・予防接種事故調査委員 会発足	・保健婦国保から市町村 に移管 ・休日急病診療所開設	100,837
54年	・住民健診ポスター作成	・1歳6か月児健診36回 ・事後検診開始 3回	・麻しん個別接種開始	・保健婦3人体制	102,160
55年	・保健健康づくりモデル 地区活動開始 ・コミュニティースポー ツ振興会における健康 づくり開始 ・糖尿病予防教室開始 ・肥満教室開始 ・高血圧教室開始	・1歳6か月児健診に歯 科健診を導入 ・なかよし教室(6回) ・幼児教室開始(6回)	・百日咳復活(三種混合) ・風疹中学1年女子に改正 ・ボリオ投与法スプーン からピペットに改正	・救急医療情報システム スタート ・保健婦4人体制	103,985
56年	・コンピュータードック開始 ・肥満教室、高血圧教室 等シリーズ開始				106,630

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他の	人口(人)
昭和57年	・保健衛生推進協議会廃止 ・乳がん自己検診法開始	・妊婦貧血教室開始(2回)	・一般会場一針一筒となる		108,885
58年	・健康手帳交付開始 ・北里支所健康相談中止 ・一般健康診査開始 ・小牧市健康まつり開始	・妊婦貧血教室(3回)		・保健婦3人体制	110,281
59年	・成人病教室の充実 ・コンピュータードック終了 ・大腸がん検診開始 ・子宮がん施設検診開始 ・保健連絡員養成講座開始	・妊婦貧血教室(4回) ・小冊子の作成 ・なかよし教室(12回)	・予防接種事故調査委員会廃止		112,097
60年	・肺がん検診開始 ・保健連絡員活動開始 ・一般健康診査ポスター作成開始	・妊婦貧血教室を妊婦栄養教室に改正(5回)			113,670
61年	・一般健康診査対象者へ個人通知 ・乳がん検診開始	・妊婦栄養教室(6回) 人形劇開始、尿中塩分量測定、みぞ汁塩分測定 ・2語文アンケート		・保健婦4人体制	115,211
62年	・肺がんX線開始		・ハイジエッタ使用全面廃止 ・麻しん無料化 ・インフルエンザ任意、保護者同意となる	・保健婦1人増員 保健婦5人 看護婦2人	117,198
63年	・基本健康診査の開始 ・リハビリ教室開始 ・人間ドックの開始	・1歳6か月児健診に精密検査を導入 ・2語文アンケートを2歳児アンケートに改正	・予防接種電算調査	・保健センター開設 ・栄養士1人配置 (職員13人) ・看護婦1人増員	119,935
平成元年		・妊婦栄養教室を妊婦教室に変更 歯の健診を導入(12回) ・1歳6か月児健診に心理相談を導入	・MMR(新三混)開始	・看護婦3人体制 ・補佐職配置 ・保健指導係長兼務 (職員14人)	122,913
2年	・訪問生活リハビリ開始 ・40歳無料大腸がん検診開始 ・食生活相談紹介状の導入により医師会との食事指導の連携できる ・「生きがいの会」発足		・予防接種協議会の設置	・保健婦1人増員 ・保健婦6人体制 (職員15人)	125,261
3年	・乳がん検診にDMRを導入 基本健診に尿酸、総蛋白を加える		・MMR凍結		129,267
4年	・成人歯科健診 ・がん死亡撲滅地区事業開始 モデル地区 =岩崎原区、市之久田区 歯科衛生士による訪問指導開始				131,024
5年	・成人健康管理システム稼働 基本健康診査にHDL・中性脂肪・クレアチニン追加 ・がん死亡撲滅モデル地区 =三ツ渕区、野口区 ・成人歯科健診を3回から6回に拡大 ・ボランティア健康劇団「ほたる」発足 ・地域ケアボランティア「ともしび」発足			・補佐職兼務を解く ・歯科衛生士1人配置 ・看護婦1人退職 (職員数16人) 保健婦6人 看護婦2人 栄養士1人 歯科衛生士1人	133,723

年度	成 人・老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック300人増加 (総数1,800人) ・人間ドック受診料 5,660円→6,000円 ・人間ドック検便を2日法に変更 ・骨粗しう症検診健康教育 ・がん死亡撲滅モデル地区 =小牧原区、北外山県住区 ・ボランティア「つづじ」 (1人ぐらし老人食生活の工夫)発足 ・小牧市老人保健福祉計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児管理システム稼働 ・母子保健法一部改正 	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ取りやめる ・予防接種法一部改正により、予診医師1人1時間あたり100名→20名 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1人増員 ・保健婦7人体制 (職員数17人) 	135,632
7年	<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック300人増加 (総数2,100人) ・骨粗しう症予防教室 ・地域リハビリの集い 「たんぽぽの会」開始 (南岩崎台) ・がん死亡撲滅モデル地区 =本庄区、藤島団地区 ・保健連絡員活動10周年記念事業 ・健康まつりで骨粗しう症検診 (国保会計) 		<ul style="list-style-type: none"> ・風しん個別接種 予防接種法一部改正により、名称及び対象年齢の変更 個別接種化に伴い、会場数を変更10→6会場 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1人増員 ・保健婦8人体制 (職員数18人) 	137,226
8年	<ul style="list-style-type: none"> ・骨粗しう症検診(新規) 年6回130人×6回=780人 ・基本健康診査 HbA1cの項目追加 (ヘモグロビンA1c) ・地域リハビリ「ももの会」開始(東部) ・がん死亡撲滅モデル地区 =村中区、大草西・東区 ・いきいきウォーキング 推進事業 =北里中学校区 応時中学校区 ・リフレッシュウォーク 四季の森~四季の道 (389人参加) ・ボランティア「つづじ」 が料理する一人ぐらし 簡単料理を広報こまきに掲載開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・9年移譲にむけて、保健センターを会場として4か月児健診の実施 (実施主体保健所) ・乳幼児管理システム第2次開発 ・母子保健計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本脳炎個別接種 個別接種化に伴い、会場数を変更6→5会場 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦 2人増員 ・看護婦 1人増員 ・保健婦 10人 ・看護婦 3人 ・栄養士 1人 ・歯科衛生士 1人退職 (職員数21人) 	138,795
9年	<ul style="list-style-type: none"> ・骨粗しう症検診 年6回150人×6回=900人 ・人間ドック300人増加 (総数2,400人) ・がん死亡撲滅モデル地区 =桜井区、大輪区 ・地域リハビリ「わかばの会」開始(藤島団地) ・いきいきウォーキング 推進事業 =光ヶ丘中学校区 味岡中学校区 ・ボランティア「つづじ」 が愛知県健康づくり振興事業団の助成により 1人ぐらし簡単料理広報掲載の効果判定 	<ul style="list-style-type: none"> ・県より事務移譲 1 妊婦及び乳幼児健康診査事業 2 4か月児・3歳児健康診査事業 3 乳幼児歯科健診予防処置事業 4 食生活改善推進員養成・育成事業 5 妊婦及び乳児健康診査受診券交付 ・母子保健推進協議会設置 ・2歳3か月児歯科健診開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・二種・三種混合個別接種 ツベルクリン・BCGを4か月児健診にあわせて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年4月1日から 統廃合により小牧保健所が春日井保健所小牧支所となる ・健康まつりにポルトガル語、スペイン語の通訳、手話通訳を配置 ・保健婦2人増員 ・事務員1人増員 ・保健婦2人退職 ・保健婦12人体制 ・歯科衛生士1人配置 (職員数24人) 	140,819

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他の	人口(人)
平成10年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =間々区・岩崎区 ・いきいきウォーキング 推進事業 =篠岡・桃陵中学校区 岩崎中学校区 ・食生活改善推進員養成 講座開始 ・小牧市食生活推進協議会 設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食教室導入(年6回) ・母乳相談の導入(月4回) ・妊婦教室をパパママ教室に変更 ・こども事故予防コーナーの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・市外中学校通学者対象 の接種を夏休みにあわ せ実施 ・ボリオ投与回数変更 年2回→3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・4か月児・1歳6か月 児・3歳児健診にポル トガル語、スペイン語 の通訳配置 ・保健婦2人増員 ・保健婦1人10月より 介護保険課へ 保健婦1人退職 ・看護婦1人退職 ・事務職1人退職 ・保健婦14人体制10月 より13人体制 (職員数26人) 	141,911
11年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =池之内区・小木区 ・いきいきウォーキング 推進事業 =小牧中学校区 小牧西中学校区 ・水中ウォーキング教室 温水プール(延233人 参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・助産婦による妊産婦・ 新生児・乳児訪問導入 (100件) ・育児専用電話「こまね っと」設置 ・育児相談を市内6か所 の児童館で開設 ・園児と親を対象に親子 歯みがき教室開設 ・小牧市独自の母子手帳 の作成・交付(6月) 		<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導係が母子保健 係と成人保健係に分か れる ・保健婦1人退職 ・保健婦1人減員 ・事務職1人減員 ・保健婦13人体制 (職員数24人) ・保健センター改築 (1階事務所改築によ り、消毒室を3階へ、 玄関前スロープ及び障 害者用トイレを改築) 	143,050
12年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =小牧区・米野区 ・人間ドック200人増加 (総数2,600人) ・人間ドック受診料 6,000円→7,050円 ・人間ドックの名称を 「すこやかドック」、 基本健康診査を「さわ やか健診」と変更 ・地域リハビリ「こめこ め12」開始(小牧南) ・寝たきり予防講座 (参加401人) ・地区巡回介護講座 (8回193人参加) ・健康ウォーキングマッ ブこまき「いい汗かい ていいもの発見」 (1,500部発行) 	<ul style="list-style-type: none"> ・4か月児健康診査に合 わせた母親歯科健診導入 ・助産婦による妊産婦、 新生児、乳児訪問 (100件→150件) ・2歳3か月育児相談 (7月) ・育児支援を中心とした 乳幼児健診体制を実施 ・日曜パパママ教室開始 (年3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別接種化に伴い会場 数を変更5→4会場 	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳3か月児歯科健診 ポルトガル語、スペイ ン語の通訳配置 (職員数24人) 	144,382
13年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =舟津区・久保一色区 ・人間ドック100人増加 (総数2,700人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付時相 談を開始 ・助産婦による妊産婦新 生児乳児訪問 (150件→200件) ・にこにこむし歯予防教 室(6回) ・親子で楽しむ料理教室 保健連絡員、母子に対 する取組み開始 ・4か月児健診1日目に 保育ボランティア「バ オバブの木」参加 ・保健連絡員「親子料理 研究会」発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上を対象とした インフルエンザ予防接 種が始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンによる保健総 合システムを導入 (職員24人) 	146,225

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他の	人口(人)
平成14年	<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック150人増加(総数2,850人) ・すこやかドック・さわやか健診に併せて肝炎検診 ・がん死亡撲滅モデル地区=池之内・林・大山野口地区・下小針区 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健連絡員とOBによる赤ちゃんの全戸訪問開始(10月) ・一般公募による保育ボランティア活動開始 ・第2次母子保健計画作成(11月から推進) ・市内モデル校によるフッ化物洗口開始(小牧原小学校・北里小学校) 		<ul style="list-style-type: none"> ・保健師1人退職(職員数23人) 	147,055
15年	<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック550人増加(総数3,400人) ・人間ドック受診料7,050円→9,000円 ・がん死亡撲滅モデル地区=北外山県住区・小牧原区 ・地域リハビリ「健康の集い」(野口第5)「ビーチの会」(桃ヶ丘)開始 ・転ばぬ先の転倒予防教室開始 ・家族の健康を考える食生活講座開始 ・介護者を支える会「ささの会」発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳を親子健康手帳として交付 ・外国人向け母子健康手帳の交付 ・パパママ教室3回コースの2・3回目を日曜日開催 ・4か月児健診(2日目)に図書館主催によるブックスタート事業が8月より開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校でのツベルクリン・BCG接種の中止 ・平成15年9月風しん予防接種経過措置終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師3名3月退職(職員数23人) 	148,387
16年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区=入鹿出新田区・南岩崎台区 ・保健師市民健康相談9時~16時→9時~12時 ・脳いきいき教室開始 ・生活習慣病予防教室「運動はじめて体験教室」参加者106人 ・健康こまきいきいきプラン作成 ・ウォーキングマップ改訂 	<ul style="list-style-type: none"> ・パパママ教室を3回コースから1回に変更 ・日曜パパママを年3回開催 ・運動発達相談開始 ・おひさま教室開始 ・生と性に関するカリキュラム「親・地域版」完成 		<ul style="list-style-type: none"> ・休日急病診療所移転 ・診療科目に外科・歯科を増設 ・事務職1人12月退職 ・事務職1人3月退職(職員数22人) ・(職員数22人) 	149,208
17年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区=上末・下末・高根区・多気上・多気下区 ・住民健康診断が9日間から2日間へ ・胸部レントゲン撮影が65才以上の方が対象となる(結核健診) ・人間ドック400人増加(総数3,800人) ・さわやか健診オプションとして胸部X線検診開始 ・さわやか健診・すこやかドックのオプションとして前立腺がん検診開始(対象50才以上) ・体しなやか膝腰スッキリ教室開始 ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」策定 ・保健連絡員活動20周年記念事業 ・'05健康・福祉フェスティバルinこまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事の合同展としてパークアリーナにて開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期離乳食教室・ごっくん教室開始 ・育児相談月4回→月2回へ ・4か月児健康診査を2日コースから1日コースへ変更 ・4か月児健康診査未受診児への対応を個人通知から、電話・訪問へ変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツベルクリン反応検査の中止 ・ダイレクトにBCG接種対象が生後6か月未満に変更 ・平成17年5月30日より日本脳炎の接種勧奨の見合わせ ・平成17年7月29日より日本脳炎第3期廃止 ・幼児期二種混合が定期外となる ・麻しん予防接種と風しん予防接種の単独ワクチンが3月末日で終了となる為接種勧奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士1人3月退職(職員数24人) 	150,569

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他の	人口(人)
平成18年	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度より、がん死亡撲滅モデル地区は小学校区で実施 =小牧南小学校 小牧小学校 ・住民健康診断2日間実施 ・乳がん、子宮がん検診受診が2年に1回に変更 ・介護保険・地域支援事業(介護予防事業)担当 ・'06健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事合同展) ・傾聴ボランティア「そよかぜ」発足 ・「牧連体操クラブ」発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・生と性に関するカリキュラム「小学生中学生版」完成 ・親子健康手帳改正(生と性に関する項目、特に自己肯定感の大切さを意識して加筆) ・マタニティキーホルダ一配布(1月) ・第2次母子保健計画中間見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん風しん混合予防接種が開始 対象が 第1期 1歳～2歳未満 第2期 小学校入学前の1年間(年長児)に変更 ・児童の集団接種が中止となり個別接種へ変更(二種混合、日本脳炎) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職1人3月退職(職員数23人) 	151,288
19年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =三ツ渕小学校 一色小学校 ・保健連絡員設置要綱改正(対象が「市内在住の主婦の方」から「20歳以上の市内在住の方」へ変更) ・「血液さらさら」をモデル地区及び6地区で実施 ・おくち元気はつらつ教室開始 ・メンタルヘルスセミナー「山口律子講演会」20年2月29日(202名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を大切にできることができる「自己肯定感獲得DVD-みんなちがってみんなない」を制作し、平成20年1月より乳幼児健診や希望者に配布、あわせて健康教育を行う ・発達障害をもつ親子を支援する「成長記録」の試作 ・不妊検査及び治療費助成開始 ・妊婦健康診査公費負担 2回→5回 ・8020歯っぴースマイル!歯みがき教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・結核予防法から感染症予防法に改正される 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士1人増員 看護士1人減員 事務職1人増員 事務職1人3月退職(職員数24人) 	152,445
20年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =大城小学校 小木小学校 ・ヤング健診の開始 ・地域リハビリ「西コミふれあいの会」開始(西部地区) ・老人保健法から健康増進法に改正される ・さわやか健診・すこやかドック廃止 健康診査(生活保護受給者)開始 ・がん個別検診開始 ・肝炎ウィルス検診を節目検診から40歳の方に変更 ・ウォーキングマップの改訂 ・低栄養予防に関するリーフレット配布開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査公費負担 5回→14回(H21.1.27以降) ・外国人ボランティアによる赤ちゃん訪問を試験的に開始 ・生と性に関するカリキュラム小中学校版を連携しながら実施を開始 ・安心相談カードを中学2年生全員に配布 ・小牧市立中学2年生全員に「生と性に関するアンケート」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん風しん混合予防接種 第3期・第4期が5年間の経過措置で開始 対象 第3期:中学1年生に相当する年齢の間の1年間 第4期:高校3年生に相当する年齢の間の1年間 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職1人減員(職員数23人) 	153,495

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他の事業	人口(人)
平成21年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =米野小学校 小牧原小学校 ・地域リハビリ「なんなん21」開始（南部地区） ・女性特有のがん検診推進事業開始 対象：子宮がん（20、25、30、35、40）乳がん（40、45、50、55、60）一定の年齢に達した女性に無料クーポン券と検診手帳配布 ・歯周病予防個別健診開始（対象：35歳） ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」中間見直し ・健康福祉フェスティバルinこまき4催事→3催事（健康まつり、福祉展、介護展）会場パークアリーナから市民会館、公民館 	<ul style="list-style-type: none"> ・4か月児健診と1歳6か月児健診にて子育て支援センターと連携 ・小牧市立中学2年生とその保護者に「生と性に関するアンケート」を実施し、思春期の諸問題に対する方策を検討 ・親子健康手帳改正（朝食の大切さに関する内容を充実） 	<ul style="list-style-type: none"> ・肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成開始 対象：75歳以上 ・新型インフルエンザワクチンの接種 ・新型インフルエンザワクチン接種に係る費用軽減事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・（職員数23人） 	153,581
22年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =村中小学校 味岡小学校 ・向井亜紀がん講演会23年1月9日（568名） ・地域自殺対象緊急強化事業「水谷修講演会」23年3月19日（783名） ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプランコーナー」として小牧産業フェスタに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページと携帯サイトに「思春期によくある質問Q&A」と「小学生と中学生のための相談窓口」を掲載 ・妊婦健康診査公費負担内容（子宮がん検診、初回血液検査等）の充実 ・妊婦健康診査受診票に妊婦（成人）歯科健診受診票を挿入 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本脳炎予防接種3才になる子に接種勧奨開始（H22.4.1～） ・インフルエンザ3価ワクチン接種（22年10月1日～23年3月31日） ・任意予防接種無料接種開始（H23.1.1～） 子宮頸がん予防ワクチン ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン 	<ul style="list-style-type: none"> ・所長補佐職母子保健係長兼務 (職員数23人) 	153,371
23年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =光ヶ丘小学校 北里小学校 ・地域リハビリ終了こめこめ12（米野小）健康の集い（野口第5） ・働く世代の大腸がん検診推進事業（集団）開始 対象：40、45、50、55、60歳の男女 ・健康日本21こまき計画関連事業 ・「いきいきおせっ会」発足 ・いきいき世代個別歯科健診事業開始（対象：40・50・60・70歳） 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査公費負担内容（成人T細胞白血病ウイルス検査、性器クラミジア検査）を追加 ・子育て支援機関連携会議を開催（ハローファミリーカードの導入） ・妊娠届出時アンケートの充実 ・小学校1・2年生を対象に「いのちの学習」を実施（15校） ・市ホームページと携帯サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q&A」の内容を充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン一時見合わせ（23年3月5日～23年3月31日） ・水痘（水ぼうそう）ワクチン予防接種、おたふくかぜワクチン予防接種費用助成開始（H23.10.1～） ・日本脳炎特例措置開始（H23.5.20～） (H7.6.1～H19.4.1生まれが20歳未満まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ・所長補佐職母子保健係長兼務 保健師1人増員 (職員数23人) 	153,507

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他の	人口(人)
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =本庄小学校 篠岡小学校 ・働く世代の大腸がん検診推進事業(個別)開始 対象:40、45、50、55、60歳の男女 ・ウォーキングマップの改訂 ・知立市健康推進員視察と健康連絡員との交流会 ・第30回健康まつり(フェスティバル)をもって終了 各地区健康展で開催 ・職域対象歯周疾患対策普及啓発事業開始(商工会議所連携事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期からの育児支援を目的に愛知県統一様式の妊娠届出書を採用。それに伴い市独自の妊娠届出時アンケートを変更 ・今まで平日パパママ教室(栄養・歯について)、日曜パパママ教室(育児について)で開催された内容を見直し、パパママ教室(育児・栄養・歯について)として、平日や日曜日に開催 ・親子で楽しむ料理を考える会活動終了 ・小牧市立中学2年生に「生と性に関するアンケート」を毎年実施してきたが、今後5年毎の実施とする予定(平成29年度実施予定) ・市ホームページと携帯サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q&A」に「いじめ」についての内容を追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへ(H24.9.1~) ・四種混合ワクチン開始(H24.11.1~) ・尾張北部医療圏広域予防接種開始(H24.6.1~) 	<ul style="list-style-type: none"> ・所長補佐職成人係長兼務 保健師1人増員(職員数23人) 	153,344
25年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 =小牧南地区、桃ヶ丘小学校 ・地域リハビリ終了ピーチの会(桃ヶ丘地域) ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」最終評価 ・「こころの相談窓口」パンフレット改訂 ・乳がん(超音波)検診の開始 対象:30~39歳 ・介護予防事業一次予防事業「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」「サヨナラ膝腰痛教室」「男性のための膝腰痛予防プログラム」開始 ・地域主体の健康まつり(展)の拡充 ・「糖尿病連携手帳」を活用した歯周病予防事業開始 ・乳がん検診(超音波)を30歳代のみ対象として開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・低体重児の届出及び未熟児訪問が愛知県から権限移譲 ・健診の事後教室として、かかわりあそびをとおして、親子とのかかわりりを学ぶことができる「あそびの教室」を開始 ・小学校2年生とその保護者を対象に「いのちの学習」を実施(16校) ・中学校3年生に対し「素敵な大人になろう~性感染症の予防~」を実施(7校) ・園児対象う蝕対策普及啓発事業開始(学官連携事業) ・学童期歯科疾患対策モデル事業開始 ・楽育相談をH26年3月より、試験的に実施 2名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸がん予防ワクチン定期接種化(H25.4.1~) ・BCG接種対象者生後1年に至るまでに変更(標準:生後5~8月)(H25.4.1~) ・子宮頸がん予防ワクチンH25.6.14より積極的な勧奨の差し控え ・風しんワクチン予防接種費用助成事業開始(H25.7.1~) ・日本脳炎特例措置生年月日の拡大(H7.6.1生→H7.4.2生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師1人増員 事務職1人減員 	153,170

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成26年	<ul style="list-style-type: none"> ・女性特有のがん検診推進事業（乳・子宮がん検診） <ul style="list-style-type: none"> ①《乳・子宮がんコールリコール》 H26年度検診申込者で、H21～24年度に無料クーポンを配布し年度内の未使用者に対し本人の申し出により、再度無料クーポンを配布 ②《無料クーポン券の配布年齢を変更》 乳がん検診：40歳のみ、子宮がん検診：20歳のみ ・胃がん・大腸がん検診対象年齢を40歳を30歳に拡充 ・人間ドック事業を開始 <ul style="list-style-type: none"> 対象：40歳以上の国民健康保険被保険者、後期高齢者医療被保険者、協会けんぽ被扶養者の方限定（年度内に40歳を迎える方も対象） ・がん検診自己負担額みなおし <ul style="list-style-type: none"> 70歳以上0円→500円/各検診 69歳以下軽減 ・非課税世帯者に対し、「がん検診・人間ドック費用免除券」を保健センター窓口にて発行 ・がん死亡撲滅モデル地区 <ul style="list-style-type: none"> =小牧地区 陶小学校区 ・保健連絡員OB「つづじ会」（一人暮らし高齢者の食生活の研究と工夫）活動終了 ・壮年期対象の機能訓練教室終了 ・第2次健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児健康診査受診票の金額変更 <ul style="list-style-type: none"> (1回目・2回目5,350円から、1回目5,180円、2回目5,990円へ) ・乳幼児健康診査（集団）の問診票を保護者が外国人の場合、あらかじめ母国語の問診票を郵送 ・にこにこ虫歯予防教室を平成25年度より、にこにこ虫歯予防相談として、児童館において実施 ・安心相談カードを教育委員会の相談カードと一体化、市内中学1年生と高校1年生に配布 ・学校保健課題解決事業において小牧市生と性のカリキュラムの公開授業研究に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・水痘ワクチン定期接種化(H26.10.1～) ・経過措置（26年度のみ）生後36月～60月に至までの間の児を対象 ・成人用肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成の対象者変更75歳以上→70歳以上 ・成人用肺炎球菌ワクチン定期接種化(H26.10.1～) ・経過措置（26～30年度） ・前年度の末日に各64.69.74.79.84.89.94.99歳の者 ・26年度は25年度末に100歳以上の者 ・愛知県広域予防接種開始（H26.4.1～）(A類疾病のみ) ・日本脳炎（第2期）高3に相当する学年の方で未接種に対し個別通知開始 		153,303
27年	<ul style="list-style-type: none"> ・がん死亡撲滅モデル地区 <ul style="list-style-type: none"> =巾下地区、味岡地区 ・こまき健康マイページ事業開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年8月中旬より自己肯定感獲得動画を市のホームページでネット配信。DVDは乳幼児健診等で希望者に配布 ・高校にてモデル事業として生と性のカリキュラムを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本脳炎（第1期）未接種(H13.4.2生～H19.4.1生)に対し個別通知 ・二種混合（第2期）発送時期の変更12才誕生日→11才の誕生日の翌月 		153,680

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他の事業	人口(人)
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> ・保健連絡員活動30周年記念事業 ・新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業 (乳・子宮がん検診) 《乳・子宮がんコールリコール》 H25年度に無料クーポンを配布した方で年度内に未使用かつ過去5年間(H22~26年度)に一度も保健センターの検診を受けたことがない方に、無料クーポン券を個別通知 	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命をのばそ うアワード」母子保健分野(自治体部門)において優良賞授賞 「母子保健推進協議会から発信する親子の自己肯定感の醸成=『心豊かにいき いきと生きる力』を持つ子どもの成長につなげていくために=」 ・平成28年3月7日より、市ホームページ上に「お子さんの発育や発達に不安を感じたら…」を掲載 その中で自閉症スペクトラム評価尺度「エムチャット」について、活用したい人が活用できるよう、情報提供(外部リンク)を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・尾張北部医療圏の広域接種(B類)H28.3.31で終了 ・インフルエンザワクチン3価→4価に自己負担1,000円→1,200円に変更 		
28年	<ul style="list-style-type: none"> ・こまき健康マイレージ事業からこまき健康いきいきポイントへ名称変更 ・ウォーキングアプリ「alko」を10月から配信 ・がん死亡撲滅モデル地区 =東部地区、北里地区 ・介護予防事業一次予防事業「男性のための膝腰痛予防プログラム」終了 ・胃がん(内視鏡検査)検診を50歳以上の方に対し2年に1回、和暦の偶数・奇数で区別し、偶数生まれの方から検診を開始 ・新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業 《乳・子宮がんコールリコール》 H26年度に無料クーポンを配布した方で年度内に未使用かつ過去5年間(H23~H27年度)に一度も保健センターの検診を受けたことがない方に、無料クーポン券を個別通知 ・人間ドック受診期間を6月~翌年2月14日まで延長 ・こまきヘルシーメニュー事業を平成29年2月から開始 ・5大がん検診の要精検者に再通知を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の高校(3校)にて、生と性のカリキュラムを推進 ・赤ちゃん訪問において、外国人家庭へ積極的に訪問実施 ・親子健康手帳の表紙デザインを従来の卵のデザインから市ブランドロゴマークをアレンジしたデザインへ変更。それに伴い、卵や鳥をたとえにした文章表現を変更 ・第1回母子手帳フォーラム(東京)に参加し、「親子健康手帳における小牧市の思い」を報告 ・愛知県公衆衛生研究会にて「1歳6か月児健診後の言語発達における伸びを予測する因子-遊びの場を活用した健診にて-」について研究発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の広域予防接種B類疾病開始(H28.4.1~) ・三種混合ワクチン販売中止 最終有効期限H28.7.15で終了 ・B型肝炎定期接種化(H28.10.1~) ・日本脳炎第2期H19.4.2生~の勧奨再開 	<ul style="list-style-type: none"> ・初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の作成 	153,526

年度	成 人・老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
平成 29 年	<ul style="list-style-type: none"> ・こまき健康いきいきポイント事業のポイント有効期限を2カ年に変更 ・壮年期保健事業出前講座に「正しいラジオ体操教室」を追加 ・介護予防事業一次予防事業に「いきいき元気塾」運動編を味岡市民センターでも実施「カラダによく効くラジオ体操講習会」を追加 ・乳がん(マンモグラフィ)個別検診開始 ・がん撲滅モデル地区＝小牧南地区、小牧地区 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子健康手帳について、愛知県医師会から愛知県保健医療局長あてに、母子健康手帳の県内統一に関する要望書が提出されたことを受けて、母子保健推進協議会で協議した結果、①B6サイズへの変更、②省令様式の遵守、③予防接種記録等に関するページの振り分けについて、平成29年度印刷分の親子健康手帳について変更 ・国から、乳児ボツリヌス症の予防対策について、任意記載事項様式「乳幼児期の栄養」についての掲載を前提とした上での再周知の通知を受けて、小牧市独自の内容から任意記載事項様式に変更 ・不育治療等助成事業の開始 従来の一般不妊治療等助成事業に加え、不育治療等助成事業を開始 不育症についての検査及び治療を受けられたご夫婦に対し、保険適用外の医療費を助成 ・妊婦個別歯科健康診査の実施 ・妊婦、産婦、新生児、乳児訪問の予算を380件から530件へ増加 ・小牧高等学校(全日制)において、生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版の推進＝について、今後、市内の全高等学校を対象としたカリキュラムの推進を目的として、市内の全高等学校と共に公開授業研究を実施 ・第2回母子手帳フォーラムを小牧市で開催(平成29年7月1日) (国際母子手帳委員会主催、小牧市後援) ・市立中学2年生を対象に生と性に関するアンケートを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な理由による定期予防接種の再接種費用の助成開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の改正 (妊産婦、乳幼児のいる家庭の平常時の備えについて啓発を追加) ・新型インフルエンザ特定接種について市民病院と協定を結ぶ 	153,335

年度	成 人・老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
平成30年	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期出前講座に「女性ホルモンとカラダのトリセツ講座」を追加 ・健康日本21重点施策の取り組みとして、「市民健康講座」を開催 ・小牧市自殺対策計画策定 ・骨粗しょう症検診受診料見直し ・老人福祉センターで実施している老人健診相談を48回から24回へ実施回数を変更 ・10月～「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」を第1老人福祉センターで実施 ・フレイル予防のための教室「～笑いの泉～わっはっは講座」を老人福祉センターにて実施 ・がん死亡撲滅モデル地区＝巾下地区、味岡地区 ・乳がん(マンモグラフィ)検診 ①受診者への「乳房の構成」通知開始 ②無料クーポン未受診者に再通知を実施 ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定検診と市の胃・大腸がん検診の同日開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれに事例検討会や研修会が開催されているため、知恵の輪会を終了 ・平成30年4月1日出産以降の産婦及び新生児を対象に、産婦健診検査2回/人(5000円/回)、新生児聴覚検査1回/人(5000円/回)を交付 ・9月～子育て世代包括支援センターにて、産後ケア事業実施 ・子育て応援アプリ「すくすくこまキッズ」配信開始 ・妊娠期サポートプランを作成・配布 ・12月～子育て世代包括支援センターにて、「利用者支援事業会議」を月1回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人用肺炎球菌ワクチン助成事業終了終了に伴い未接種者に対し接種勧奨を個別に通知 	<ul style="list-style-type: none"> ・助産師1名増員 ・9月子育て世代包括支援センター開設(母子保健係長、保健師1名、助産師1名異動) ・所長補佐職、母子保健係長兼務 ・9月、子育て世代包括支援センター開設(ラピオビル内)母子保健型利用者支援事業の実施に伴い、親子健康手帳の交付、妊婦・産婦・乳児個別健診事業、妊婦個別歯科健診事業、低体重児の届出、妊婦・産婦・新生児・乳児訪問、育児相談(市内児童館巡回育児相談、母乳相談含)を保健センター母子保健係より子育て世代包括支援センターへ移管 	152,944
令和元年	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者の拡充(5歳刻みし、75歳を追加) ・ウォーキングアプリalkoが8月に秘書政策課から移管され3月まで所管 ・乳がん、子宮がん検診無料クーポンの未受診者の再通知を開始 ・第2次健康こまきいきいきプランの中間評価及び後期計画の策定 ・ウォーキングマップ改訂 ・がん死亡撲滅モデル地区＝東部地区、北里地区 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯っぴー子育て講座を開始 ・事後検診終了 ・股関節脱臼チェックリストを4か月児健診及び、産婦・新生児・乳児訪問で導入 ・子育て世代包括支援センターにて「アニバーサリー事業」を開始 ・1歳サポートプランを作成・配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月1日からロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を開始(市独自) ・成人用肺炎球菌ワクチンの経過措置の延長：令和元年～5年度(国の施策) 当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・大人の男性風しん対策事業(国の施策)対象者に抗体検査及び接種の無料クーポンを送付 	<ul style="list-style-type: none"> ・所長補佐職成人保健係長兼務 ・4月1日から骨髄提供者等助成事業を開始 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、成人保健事業及び母子保健事業の一部事業を中止(3月) ・愛知県災害時保健活動体制整備強化事業により「災害時地域まるわかりシート」を春日井保健所と共に作成 	152,816

年度	成 人・老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
令和2年	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例の公布 ・成人歯科健診終了 ・健康ポイント事業(ウォーキングアプリalko含む)小牧市健康づくり推進協議会を健康生きがい推進課へ事務移管する 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期支援プラン作成・配布 ・多胎妊婦向けサポートプラン作成・配布 ・4か月児・1歳6か月児、3歳児健診でサポートプランを作成・配布 ・歯っぴー子育て講座終了 ・8月～子育て世代包括支援センターにて「オンライン育児相談」を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月1日健康生きがい推進課が本庁に新設 ・健康生きがい推進課に保健師1名配置 ・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令のため一部事業を中止(4月・5月) ・1月18日新型コロナウイルスワクチン接種推進室が本庁舎に新設 ・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に、看護師1名配置 所長、所長補佐、予防係に兼務発令 	152,842
令和3年	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者の拡充(40歳から75歳の5歳刻みに80歳を追加) ・歯周病予防個別健診の対象者の拡充(20歳・25歳・30歳を追加し、20歳から35歳の5歳刻みで実施) ・まちかど運動教室開始 ・住友理工㈱フレイルチェック測定会を東部地区限定で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、小牧地区 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月～3歳児健診の視力検査でスポットビジョンスクリーナーを導入 ・多胎妊婦に妊娠健診受診票を5回分追加交付 ・「健康寿命をのばそうアワード」母子保健分野(自治体部門)において優良賞受賞「子育て世代包括支援センターと児童館が連携した切れ目ない支援体制づくり～1stアニバーサリー事業をとおして～」 ・9月～流産・死産の相談窓口開設(子育て世代包括支援センター内) 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCGの集団接種を令和3年度末で終了 ・令和元年度送付の大人の男性の風しん対策事業(国の施策)対象者の内、未受診者等に抗体検査及び接種の無料クーポンを再送付 ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の開始:接種の期間、令和4年2月28日まで 以降、接種期間、対象年齢が順次拡大 12歳以上、初回接種、第1期追加接種実施 小児(5～11歳)初回接種実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターに保健師1名、保健センターに保健師3名増員 	151,920
令和4年	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代への大腸がん検診推進事業の対象を40歳のみに変更 ・まちかど運動教室を「健康づくり編」「フレイル予防編」に分けて実施開始 ・住友理工㈱フレイルチェック測定会を全域で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝巾下地区、味岡地区 ・口腔がん検診実施(歯科医師会補助事業、2回/年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生2年生を対象にピロリ菌検査事業を開始(市独自事業) ・こまき妊娠SOSの開設(子育て世代包括支援センター内) ・産後ケア事業のメニュー(アウトリーチ)追加 ・産後ケア事業で償還払いを実施 ・こまき祖父母手帳を作成・配布 ・6月～こまき巡回バス「こまくる」のマタニティフリーパスを配布 ・令和5年2月～小牧市すくすく子育て応援事業/小牧市出産・子育て応援ギフト支給事業(国の出 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPV(子宮頸がん予防)ワクチンの接種勧奨の再開 ・令和4年4月～令和7年3月の3年間、平成25年度から令和3年度の間に、HPVワクチン定期接種の対象であった方々へのキャッチアップ接種を開始 ・小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助金の開始(～令和6年度末まで) ・小牧市内の医療機関でBCGの個別接種を開始 ・大人の男性の風しん対策事業(国の施策)が令和6年度末まで延長。対象者に 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月1日よりがん患者医療用補整具(ウィッグ・乳房補整具等)購入費助成事業を開始:実施要領施行は4月1日～ ・小牧市役所が健康経営優良法人2023に認定 ・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に保健師1名配置 ・新型コロナウイルスワクチン接種会場として保健センターで小児接種を実施 ・保健センターに保健師2名、介護保険課に1名増員 	150,684

年度	成 人・老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
令和4年		<p>産子育て応援給付金)並びに伴走型相談支援を開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体「摂食障害よりみち」との協働事業で摂食障害予防啓発協働事業を実施 ・保健センターでのパパママ教室を子育て世代包括支援センターの「集まれ たまごファミリー」に統合し子育て世代包括支援センターで実施 	<p>抗体検査及び接種の無料クーポンを送付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施:12歳以上、第2期追加接種、令和4年秋開始接種の実施。小児(5~11歳)追加接種実施 ・乳幼児(6ヶ月~4歳)初回接種実施 		
令和5年	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧市健康づくり推進プラン策定(第3次計画) ・がん死亡撲滅モデル地区 =東部地区、北里地区 ・知つて得するフレイル予防講座を「知つて得する若返り講座」「アクティブシニア応援セミナー」「健康づくり応援隊★認定講座」に変更 ・口腔がん検診拡充(歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、3回/年として実施) ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定健診と市の胃・大腸がん検診、子宮・乳がん検診の同日開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子健康手帳について任意様式を18歳まで拡大し内容を改訂 ・幼年期・学童期(中学年)性教育を中央図書館で夏休みに実施。 ・5月から伴走型支援として妊娠8か月時アンケートを開始 ・7月から低所得の妊婦に対する初回産科受診料の助成を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・4種混合ワクチンの定期接種対象月齢が生後3月から2月へ変更。 ・HPVワクチン定期接種の対象ワクチンに9価ワクチンが追加。 ・50歳以上の小牧市民に対し帯状疱疹ワクチンの予防接種費用助成開始 ・新型コロナウイルスワクチン特例臨時接種を年度末で終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月1日より若年がん患者在宅療養助成事業を開始:実施要領施行は4月1日~ ・骨髓提供者等助成事業を拡充 ・市の独自の助成金として20万円を助成拡充 ・精神保健福祉士1名配置 ・子育て世代包括支援センター、保健センター、健康生きがい推進課に保健師を各1名増員 	150,188

※人口は各年度4月1日現在の人数

第4 衛生統計

第4 衛生統計

1 人口動態統計年次推移

年次	人口	出生				死亡				自然増減		乳児死亡(再掲)				新生児死亡(再掲)		死産				周産期死亡(再掲)				婚姻		離婚	
		総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	総数	率	総数	自然	人工	率	総数	妊娠満22週以後の死産数	早期新生児死亡数	率	実数	率	実数	率
平成30年	148,665	1,012	529	483	6.8	1,313	710	603	8.8	△ 301	△ 2.0	2	2	0	2.0	1	1.0	33	18	15	31.6	9	8	1	8.8	734	4.9	240	1.6
令和元年	152,816	1,059	525	534	6.9	1,305	717	588	8.5	△ 246	△ 1.6	4	1	3	3.8	2	1.9	22	16	6	20.4	5	5	0	4.7	749	4.9	271	1.8
令和2年	148,831	901	487	414	6.1	1,267	700	567	8.5	△ 366	△ 2.5	2	1	1	2.2	1	1.1	19	12	7	20.7	4	3	1	4.4	627	4.2	228	1.5
令和3年	147,713	898	430	468	6.1	1,415	781	634	9.6	△ 517	△ 3.5	1	1	0	1.1	0	0.0	19	10	9	20.7	1	1	0	1.1	599	4.1	233	1.6
令和4年	147,174	878	467	411	6.0	1,491	836	655	10.1	△ 613	△ 4.2	2	2	0	2.3	2	2.3	15	10	5	16.8	2	2	0	2.3	564	3.8	207	1.4
愛知県 (令和4年)	7,228,000	51,152	26,432	24,720	7.1	81,183	43,092	38,091	11.2	△ 30,031	△ 4.2	95	50	45	1.9	44	0.9	885	454	431	17	151	121	30	2.9	33,434	4.6	11,061	1.5
全国 (令和4年)	122,030,523	770,759	395,257	375,502	6.3	1,569,050	799,420	769,630	12.9	△ 798,291	△ 6.5	1,356	735	621	1.8	609	0.8	15,179	7,391	7,788	19.3	2,527	2,061	466	3.3	504,930	4.1	179,099	1.5

資料:愛知県保健医療局健康医療部医療計画課「令和4(2022)年愛知県衛生年報」

資料:厚生労働省「令和4年(2022)人口動態統計」

(注1) 数値は確定数である。

(注2) 人口は、小牧市が愛知県県民文化局県民生活部統計課発表の総人口、愛知県及び全国が総務省統計局推計の日本人口で各年10月1日現在である。

(注3) 率算出の計算式

$$\text{出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率} = \frac{\text{出生} \cdot \text{死亡} \cdot \text{自然増減} \cdot \text{婚姻} \cdot \text{離婚数}}{\text{人口}} \times 1,000 \quad \text{乳児死亡・新生児死亡率} = \frac{\text{乳児死亡} \cdot \text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000 \quad \text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出生数} + \text{死産数}} \times 1,000 \quad \text{周産期死亡率} = \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

2 主要死因別死亡数・率年次推移

年次	総数	結核		悪性新生物		高血圧性疾患		心疾患		脳血管疾患		肺炎		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成30年	1,313	2	0.2	382	29.1	7	0.5	128	9.7	93	7.1	98	7.5	22	1.7	27	2.1	114	8.7	49	3.7	23	1.8	368	28.0
令和元年	1,293	0	0.0	379	29.3	3	0.2	100	7.7	87	6.7	88	6.8	19	1.5	27	2.1	121	9.4	34	2.6	26	2.0	409	31.6
令和2年	1,267	1	0.1	365	28.8	2	0.2	107	8.4	101	8.0	66	5.2	12	0.9	24	1.9	145	11.4	40	3.2	16	1.3	388	30.6
令和3年	1,415	0	0.0	385	27.2	5	0.4	150	10.6	97	6.9	68	4.8	14	1.0	20	1.4	176	12.4	39	2.8	24	1.7	437	30.9
令和4年	1,491	2	0.1	380	25.5	0	0.0	146	9.8	106	7.1	59	4.0	10	0.7	20	1.3	201	13.5	37	2.5	24	1.6	506	33.9
愛知県 (令和4年)	81,183	97	0.1	20,533	25.3	262	0.3	9,575	11.8	5,013	6.2	3,245	4.0	925	1.1	1,462	1.8	10,679	13.2	2,142	2.6	1,139	1.4	26,111	32.2
全国 (令和4年)	1,569,050	1,664	0.1	385,797	24.6	11,665	0.7	232,964	14.8	107,481	6.9	74,013	4.7	18,896	1.2	30,739	2.0	179,529	11.4	43,420	2.8	21,252	1.4	461,630	29.4

資料:令和4(2022)年愛知県衛生年報

資料:令和4(2022)年人口動態統計

(注1) 数値は確定数である。

第5 成人保健事業

第 5 成人保健事業

高齢化率の上昇とともに、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加し、認知症や要介護状態となる人々の増加は、深刻な問題になっている。

小牧市では生活習慣病予防や介護予防のために各種保健事業を進める中で、必要な方へ効果的に事業の利用をしてもらうために、保健センターと地域の方々とのパイプ役として保健連絡員制度を設けている。

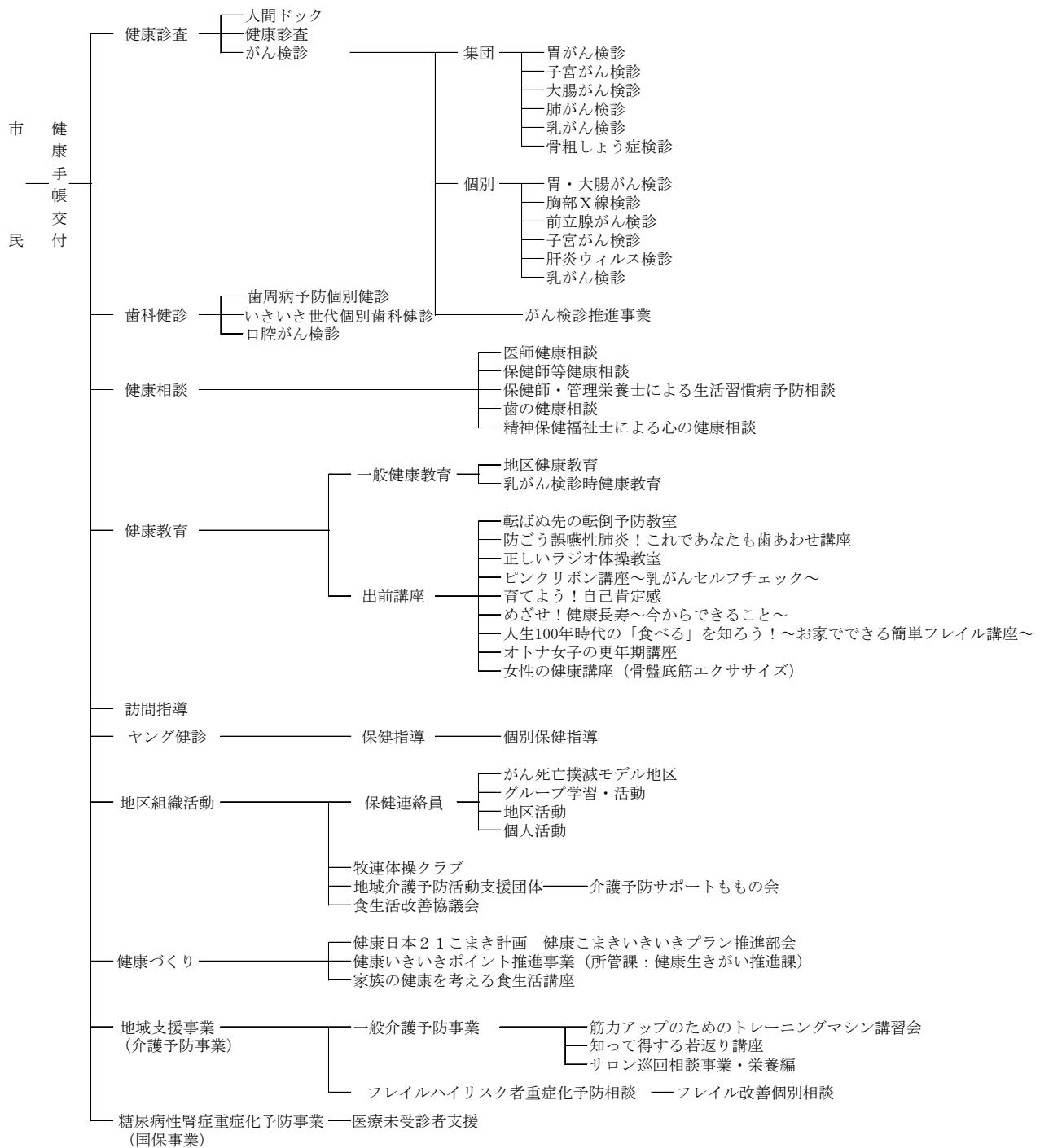
また、すべての市民が健康で長生きできる小牧市を目指して、市民や関係機関等が健康づくりに取り組めるよう、平成26年度に「第2次健康こまきいきいきプラン」を策定、平成27年度から推進し、平成30年度にその中間評価を実施した。令和元年度には評価から導き出された課題等をふまえ「第2次健康こまきいきいきプラン後期計画」を策定、令和2年度から推進して、令和5年度に評価を行うとともに、第3次計画を策定するに至った。

歯科保健に関しては、歯と口腔の健康が全身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、健康寿命の延伸に欠かせないことから、「小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」を令和3年4月1日に施行し、歯・口腔の健康づくりに関する市民の取組みを支援している。

- (1) 各種がん検診、健康診査、骨粗しょう症検診、各種歯科健診、ヤング健診等により住民の健康上の問題把握を行っている。
- (2) 把握された健康上の問題を受診者に連絡し、指導するとともに生活習慣病予防相談においてコントロールされた日常生活を身につけ、症状の改善を図るように支援している。
- (3) 健康上の悩みに対応するため、定例健康相談日を設け、医師・保健師・看護師・管理栄養士・歯科衛生士が相談に応じている。
- (4) 一人で外出しづらくなり、閉じこもりがちな人達が集まる場を地域の人達と共に作り、閉じこもりを防ぎ、介護予防に努めている。

- (5) 健康こまきいきいきプランの5分野（栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、たばこ・アルコール、歯の健康）において、市民一人ひとりが健康づくりに取り組むことができるように支援するとともに、関係機関が支援できるように計画の推進を図る。
- (6) 仕事や子育てに忙しい市民をターゲットにし、健康づくりへの関心を高め、取り組める環境をつくることで、健康な市民を増やすことを目的に健康いきいきポイント事業を平成27年度から始めている。
- (7) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取組を関係部署、関係機関と連携し、実施している。

1 成人保健事業一覧



2 健康手帳交付

(1) 目的

健康診査、各種がん検診、口腔内の状況に関する健康観察などを記録し健康管理に役立てるもの。

(2) 交付数（再交付及び更新を含む）

保健センター（40歳以上）72冊

3 人間ドック（国民健康保険被保険者、後期高齢者医療制度加入者、協会けんぽ被扶養者）

人間ドックは、年度内に40歳以上になる上記のいずれかに該当する方を対象にして市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血液一般、血中脂質、腎・肝機能、代謝系、電解質、がん（胃・大腸・肺）検診。

心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結果

(人)

対象者	受診者数
国民健康保険被保険者 後期高齢者医療制度加入者	5,580
生活保護受給者	31
協会けんぽ被扶養者	204

4 健康診査（生活保護受給者）

健康診査は、40歳以上の生活保護受給者を対象にして、市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血中脂質検査、肝機能検査を実施する。

心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結果 対象者 915 人 受診率 15.0%

検査結果	人数 (人)	割合 (%)
異常なし	11	8.0
要観察	11	8.0
要指導	9	6.6
要医療	12	8.8
治療中	94	68.6
計	137	100.0

5 肝炎ウイルス検診

C型肝炎緊急総合対策の一環として、市内指定医療機関で実施。

(1) 対象

昭和 58 年 4 月 1 日～昭和 59 年 3 月 31 日生まれの方。

(2) 検診結果

C型	(人)		
	男	女	計
感染している可能性が高い	0	0	0
感染していない可能性が高い	5	10	15

B型	(人)		
	男	女	計
陽性	0	0	0
陰性	5	10	15

6 がん検診

平成 20 年度から特定健康診査の開始に伴い、個別の胃がん・大腸がん検診を開始。

※精密検査受診結果に関しては令和 6 年 5 月 31 日までに保健センターへ精密検査結果報告書の提出があったものを集計

がん（個別）検診

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	精密検査結果		
			異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患	判定不能		異常なし	がん	その他
胃がん検診（X線）	4,616	813	3,062	1,344	208	—	2	4.5%	20	2	83
大腸がん検診	9,609	1,550	8,712	—	843	—	54	8.8%	134	20	292
子宮頸がん検診	2,192	1,305	2,096	—	94	—	2	4.3%	42	2	19
乳がん検診（マンモグラフィ）	1,080	619	980	36	64	—	—	5.9%	29	8	25
胸部X線直接撮影検診	10,917	1,778	7,631	2,859	283	143	1	2.6%	88	2	79
前立腺がん検診	4,217	680	3,744	228	245	—	—	5.8%	33	17	54

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					生検数	要再検査数
			胃がんなし	胃がん疑い	胃がん	胃がん以外の悪性病変	判定不能		
胃がん検診（内視鏡）	1,671	408	1,653	8	7	3	0	213	13

人間ドックとして実施したがん検診（胃がん・大腸がん・肺がん検診）の実績もそれぞれの検診（個別）に加算して計上

※肺がん検診＝胸部X線直接撮影検診

がん（集団）検診

検診名	回数	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	精密検査結果		
				異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患	異常なし		がん	その他	
胃がん検診（X線）	10	353	150	234	112	7	—	2.0%	2	0	3	
大腸がん検診	—	673	275	634	—	39	—	5.8%	5	0	9	
乳がん検診（マンモグラフィ）	12	890	409	848	0	42	—	4.7%	18	1	16	
乳がん検診（超音波）	4	185	120	146	37	2	—	1.1%	0	0	1	
子宮頸がん検診	5	285	150	283	—	2	—	0.7%	1	0	1	
胸部X線間接撮影検診	4	129	15	89	29	2	9	1.6%	1	0	1	
肺がん検診（喀痰）	—	11	7	10	—	0	0	0.0%	—	—	—	

※喀痰1人判定不能

※胸部X線間接撮影検診は結核検診を兼ねる

※令和5年度より、同日開催でも会場が異なる場合は回数を数えることとする

女性特有のがん検診推進事業（平成 21 年度から実施）

(1) 無料クーポン券を配布（乳がん検診（40 歳）、子宮頸がん検診（20 歳））

特定の年齢に達した女性に対し、無料クーポン券とリーフレット（令和元年度より検診手帳をリーフレットに変更）を配布。女性特有のがん検診を無料で受診できる機会を設け、がん検診の受診促進を図り、がんの早期発見と正しい健康知識の向上を図る。

検診名	対象者数（人）	検診手段	クーポン利用者数（人）	利用率	がん（人）
乳がん検診	914	集団	68	24.1%	0
		個別	152		0
子宮頸がん検診	819	集団	1	11.6%	0
		個別	94		0

(2) 乳がん・子宮頸がん検診コールリコール

令和 3 年度に無料クーポン券を配布した方で、当該年度内に未使用かつ過去 5 年間（平成 30 年～令和 4 年度）に一度も市が実施する検診を受診していない方に無料クーポン券を再度発行し無料で検診を受診できるコールリコール事業を実施。

検診名	対象者数（人）	検診手段	クーポン利用者数（人）	利用率	がん（人）
乳がん検診	608	集団	8	5.6%	0
		個別	26		0
子宮頸がん検診	738	集団	1	5.8%	0
		個別	42		0

働く世代への大腸がん検診推進事業（40 歳）（令和 4 年度より対象を 40 歳のみへと変更）

特定の年齢に達した男女に対し、がん検診の受診促進を図るとともに、がんの早期発見と正しい健康知識の向上と啓発を図り、もって健康保持増進を図ることを目的とする。

検診名	対象者数（人）	検診手段	クーポン利用者数（人）	利用率	がん（人）
大腸がん検診	1,880	集団	58	7.3%	0
		個別	80		0

がん検診受診者の年齢構成

がん検診(乳がん・子宮がん検診を除く)実施期間: 6月1日～2月14日
乳がん・子宮がん検診実施期間: 6月1日～3月31日

(個別) 男

(人)

検診名	受診者数	~29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診 (X線)	2,394	0	3	90	124	367	1,810
胃がん検診(内視鏡)	782	0	0	0	38	131	613
大腸がん検診	4,543	0	2	147	239	682	3,473
胸部X線直接撮影検診	5,030	0	3	133	269	726	3,899
前立腺がん検診	4,217	0	0	3	243	592	3,379

(個別) 女

(人)

検診名	受診者数	~29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診 (X線)	2,222	0	8	174	193	433	1,414
胃がん検診(内視鏡)	889	0	0	0	80	182	627
大腸がん検診	5,066	0	12	316	412	937	3,389
子宮頸がん検診	2,192	385	288	557	433	255	274
乳がん検診 (マンモグラフィ)	1,080	0	0	447	271	172	190
胸部X線直接撮影検診	5,887	0	7	272	418	988	4,202

(集団) 男

(人)

検診名	受診者数	~29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診 (X線)	100	0	9	12	16	20	43
大腸がん検診	148	0	11	26	19	30	62
胸部X線間接撮影検診	54	0	0	0	0	6	48
肺がん検診 (喀痰)	10	0	0	0	2	2	6

(集団) 女

(人)

検診名	受診者数	~29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診 (X線)	253	0	31	57	52	67	46
大腸がん検診	525	0	46	130	120	134	95
子宮頸がん検診	285	5	31	57	67	66	59
乳がん検診 (マンモグラフィ)	890	0	0	212	222	216	240
乳がん検診 (超音波)	185	0	173	12	0	0	0
胸部X線間接撮影検診	75	0	0	0	0	28	47
肺がん検診 (喀痰)	1	0	0	0	0	1	0

がん要精密検査者の年齢・性別構成

胃がん検診 (X線)

(人)

区分	要精密検査者数	精密検査結果											
		精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	胃がん(転移性を含まない)	胃・十二指腸潰瘍	胃ポリープ	粘膜下腫瘍	胃・十二指腸潰瘍瘢痕	胃炎	がんの疑い又は未確定
40歳未満	男	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
40~44歳	男	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2 50.0%	1	0	0	1	0	0	0	0
45~49歳	男	1	0	0	1 0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	7	4	0	3 57.1%	1	0	0	0	0	0	3	0
50~54歳	男	2	1	0	1 50.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2 50.0%	1	0	0	0	1	0	0	0
55~59歳	男	6	4	0	2 66.7%	1	0	1	0	1	0	1	0
	女	5	4	0	1 80.0%	0	0	1	1	1	0	1	0
60~64歳	男	7	3	0	4 42.9%	1	0	0	1	0	0	0	1
	女	4	1	0	3 25.0%	0	0	0	0	1	0	0	0
65~69歳	男	8	3	0	5 37.5%	2	0	0	0	0	0	1	0
	女	7	4	0	3 57.1%	2	0	0	0	0	0	1	0
70~74歳	男	37	19	4	14 51.4%	1	0	0	6	1	3	7	0
	女	27	9	0	18 33.3%	2	0	0	3	0	0	2	0
75歳以上	男	63	35	2	26 55.6%	5	2	3	2	4	3	15	0
	女	33	19	1	13 57.6%	4	0	1	5	1	0	5	1
合計 (40歳未満を含む)	男	124	65	6	53 52.4%	11	2	4	9	6	6	24	0
	女	91	45	1	45 49.5%	11	0	2	10	4	0	12	1
	計	215	110	7	98 51.2%	22	2	6	19	10	6	36	1
合計 (40歳未満を除く)	男	124	65	6	53 52.4%	11	2	4	9	6	6	24	0
	女	91	45	1	45 49.5%	11	0	2	10	4	0	12	1
	計	215	110	7	98 51.2%	22	2	6	19	10	6	36	1

がん要精密検査者の年齢・性別構成

胃がん検診 (内視鏡)

(人)

区分	要精密検査者数	精密検査結果															
		検診時生検受診者のうち再検査者数	計	精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	胃がん(転移性を含まない)	食道がん	胃・十二指腸潰瘍	胃ポリープ	粘膜下腫瘍	胃・十二指腸潰瘍瘢痕	胃炎	がんの疑い又は未確定	その他(転移性胃がんを含む)
50~54歳	男	1	0	1	1	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	3	0	3	3	0	100.0%	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
55~59歳	男	2	0	2	2	0	100.0%	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	女	6	0	6	6	0	100.0%	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
60~64歳	男	3	0	3	3	0	100.0%	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	女	5	1	6	5	1	83.3%	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0
65~69歳	男	6	2	8	7	1	87.5%	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0
	女	15	0	15	15	0	100.0%	1	0	0	0	0	1	0	0	3	10
70~74歳	男	23	0	23	23	0	100.0%	5	1	0	0	0	1	0	1	6	0
	女	21	1	22	21	1	95.5%	2	0	0	0	0	2	0	1	4	0
75歳以上	男	75	7	82	79	3	96.3%	10	5	1	2	9	1	4	10	4	33
	女	53	2	55	53	2	96.4%	2	1	0	0	12	0	2	14	0	22
合計	男	110	9	119	115	4	96.6%	16	6	1	2	14	1	5	20	4	46
	女	103	4	107	103	4	96.3%	7	1	0	0	21	0	3	23	0	48
	計	213	13	226	218	8	96.5%	23	7	1	2	35	1	8	43	4	94

がん要精密検査者の年齢・性別構成

大腸がん検診

(人)

区分	要精検者数	精密検査結果											
		精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	大腸がん(転移性を含まない)	ポリープ	憩室	痔疾患	潰瘍性大腸炎	がんの疑い又は未確定	その他(転移性大腸がんを含む)
40歳未満	男	1	1	0	100.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	5	0	0	5.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
40~44歳	男	2	1	0	50.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	12	2	0	16.7%	1	0	0	0	1	0	0	0
45~49歳	男	7	2	2	28.6%	1	0	1	0	0	0	0	0
	女	8	6	1	75.0%	2	0	2	1	1	0	0	0
50~54歳	男	11	3	1	27.3%	1	0	2	0	0	0	0	0
	女	10	4	0	40.0%	1	0	3	0	0	0	0	0
55~59歳	男	11	4	0	36.4%	0	0	3	1	0	0	0	0
	女	18	11	0	7	61.1%	5	1	4	1	0	0	0
60~64歳	男	15	8	1	6	53.3%	2	0	5	1	0	0	0
	女	27	15	2	10	55.6%	7	0	4	3	1	0	0
65~69歳	男	52	23	0	29	44.2%	9	2	8	2	0	1	0
	女	32	17	1	14	53.1%	5	1	5	3	1	0	2
70~74歳	男	99	51	3	45	51.5%	13	1	26	7	1	0	3
	女	83	53	2	28	63.9%	17	3	23	10	0	0	0
75歳以上	男	302	159	12	131	52.6%	43	9	66	31	3	1	6
	女	187	100	9	78	53.5%	30	3	48	16	1	0	1
合計 (40歳未満を含む)	男	500	252	19	229	50.4%	71	12	111	42	4	2	10
	女	382	208	15	159	54.5%	68	8	89	34	5	0	3
合計 (40歳未満を除く)	計	882	460	34	388	52.2%	139	20	200	76	9	2	13
	男	499	251	19	229	50.3%	70	12	111	42	4	2	10
	女	377	208	15	154	55.2%	68	8	89	34	5	0	3
	計	876	459	34	383	52.4%	138	20	200	76	9	2	13

がん要精密検査者の年齢・性別構成

胸部X線検診

(人)

区分	要精検者数	精密検査結果										
		精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	肺がん	良性肺腫瘍	がんの疑い又は未確定	その他(転移性肺がんを含む)		
40~44歳	男	1	1	0	0	100.0%	0	0	0	0	1	
	女	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	
45~49歳	男	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	
	女	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0	
50~54歳	男	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	
	女	3	1	0	2	33.3%	1	0	0	0	0	
55~59歳	男	4	2	0	2	50.0%	2	0	0	0	0	
	女	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	0	1	
60~64歳	男	6	4	0	2	66.7%	3	0	0	0	1	
	女	3	2	0	1	66.7%	0	0	0	0	2	
65~69歳	男	12	9	0	3	75.0%	5	0	0	0	4	
	女	21	15	1	5	71.4%	10	0	0	1	4	
70~74歳	男	30	16	1	13	53.3%	10	0	0	0	6	
	女	40	20	3	17	50.0%	14	0	1	1	4	
75歳以上	男	77	43	0	34	55.8%	18	0	3	3	19	
	女	84	56	2	26	66.7%	25	2	2	5	22	
合計	男	131	75	1	55	57.3%	38	0	3	3	31	
	女	154	96	6	52	62.3%	51	2	3	7	33	
		計	285	171	7	107	60.0%	89	2	6	10	64

がん要精密検査者の年齢・性別構成
子宮頸がん検診

(人)

区分	要精検者 数	精密検査結果											
		精検受診 者数	精検未受 診者数	精検未把 握者数	精検受診 率	異常なし	LSIL/CIN 1	HSIL/CIN 2	HSIL/CIN 2~3	HSIL/CIN 3	AIS	子宮頸 がん	他の 疾患 (腺 異形成含 む)
20~24歳	14	8	0	6	57.1%	6	2	0	0	0	0	0	0
25~29歳	11	10	0	1	90.9%	6	2	1	0	0	0	0	1
30~34歳	13	7	0	6	53.8%	4	3	0	0	0	0	0	0
35~39歳	6	4	0	2	66.7%	3	0	0	0	0	0	1	0
40~44歳	10	8	0	2	80.0%	5	2	1	0	0	0	0	0
45~49歳	17	14	0	3	82.4%	9	2	2	0	0	0	1	0
50~54歳	15	9	0	6	60.0%	6	0	2	0	0	1	0	0
55~59歳	4	1	1	2	25.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
60~64歳	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
65~69歳	3	3	0	0	100.0%	2	0	0	0	0	0	0	1
70~74歳	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
75歳以上	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
合計	96	65	1	30	67.7%	43	11	6	0	0	1	2	2

がん要精密検査者の年齢・性別構成
乳がん検診 (マンモグラフィ)

(人)

区分	要精検者 数	精密検査結果						
		精検受診 者数	精検未受 診者数	精検未把 握者数	精検受診 率	異常なし	乳がん (転移性 を含まな い)	その他(転 移性乳が ん含む)
40~44歳	26	25	1	0	96.2%	13	1	11
45~49歳	11	10	0	1	90.9%	5	1	4
50~54歳	19	17	0	2	89.5%	6	2	9
55~59歳	11	11	0	0	100.0%	6	0	5
60~64歳	11	10	0	1	90.9%	3	3	4
65~69歳	9	7	0	2	77.8%	5	1	1
70~74歳	15	13	1	1	86.7%	7	1	5
75歳以上	4	4	0	0	100.0%	2	0	2
合計	106	97	2	7	91.5%	47	9	41

乳がん検診（超音波）

(人)

区 分	要精検者 数	精 密 檢 查 結 果						
		精検受診 者数	精検未受 診者数	精検未把 握者数	精検受診 率	異常なし	乳がん (転移性 を含まな い)	
30～34歳	2	1	0	1	50.0%	0	0	1
35～39歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
40～44歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
合計	2	1	0	1	50.0%	0	0	1

がん要精密検査者の年齢・性別構成

前立腺がん検診

(人)

区 分	要精検者数	精 密 檢 查 結 果						
		精検受診者 数	精検未受診 者数	精検未把握 者数	精検受診率	異常なし	前立腺がん	その他
50～54歳	2	1	0	1	50.0%	0	0	1
55～59歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
60～64歳	7	2	0	5	28.6%	0	0	2
65～69歳	16	9	0	7	56.3%	1	2	6
70～74歳	57	24	3	30	42.1%	10	4	10
75歳以上	163	53	12	98	32.5%	22	11	20
合計	245	89	15	141	36.3%	33	17	39

7 骨粗しょう症検診

寝たきりの原因となる骨粗しょう症予防のため、30歳以上の市民を対象に実施。

※平成28年度から足部位での超音波診断

受診者の年齢・性別構成

(男)		(人)		
年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	2	0	0	2
40～49歳	0	0	0	0
50～59歳	3	0	0	3
60～69歳	3	3	0	6
70歳以上	24	15	6	45
合計	32	18	6	56

(女)		(人)		
年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	5	0	0	5
40～49歳	19	4	1	24
50～59歳	24	15	7	46
60～69歳	21	25	14	60
70歳以上	27	46	25	98
合計	96	90	47	233

8 健康教育事業

(1) 乳がん検診時健康教育

ア 目的

乳がんについての理解を深め、ブレスト・アウェアネスを習得してもらい、乳がんの早期発見、早期治療に結びつける。

イ 対象

乳がん検診受診者

ウ スタッフ

保健師・看護師

エ 実施内容・参加者数

回 数	内 容	参加者数
108 回	乳がんについて ブレスト・アウェアネスについて セルフチェックについて	631 人

(2) 地区健康教育

ア スタッフ

保健師、管理栄養士

イ 保健師対応健康教育 実施内容・参加者数 (人)

地区・グループ名	内 容	参加者数
小牧原北	「フレイル」知っていますか? ・こまき山体操	20
久保	骨粗しょう症について	22
朝日区サロン	認知症予防について	7
小牧原中	健康測定の振り返り	28
上新町	健康的な生活をおくるために (健康測定の振り返り)	14
野口	フレイルチェック	35

小針	ふれあい健康教室 身長・体力測定 「測定結果説明とフレイル予防について」	24
とみづか区3あい事業	「フレイル」をもっと深く	22
小木高年クラブ	フレイル予防について	35
東町	ウォーキング指導	22
村中	ウォーキング指導・ けが予防の準備体操・ストレッチ	30
野口大山区3あい	いつまでも元気でいたい人の為～人生100年イキイキ生きる～ 健康チェックと振り返り	14
いきいきシルバースポーツ学級	体組成計で自分のからだを知ろう 体組成計での測定補助、及び結果のフィードバック	40
篠岡学区地域協議会 (5月17日実施)	「しのおかさわやかウォーキング」 正しい歩き方の指導・ラジオ体操	75
篠岡学区地域協議会 (10月18日実施)	「しのおかさわやかウォーキング」 正しい歩き方の指導・ラジオ体操	75
介護サービス相談員	養成研修 地域ケア体制（介護予防・健康づくり、生きがいづくり）	4
光ヶ丘小学校区地域協議会	「光ヶ丘ウォーク2023」準備運動・歩き方指導	225
岩崎東・中サロン	健康講話・タオルを使った体操	30
久保一色中南サロン	骨密度測定とお話・握力測定	13
久保一色新田サロン	骨密度測定とお話・握力測定	19
計		719

ウ 管理栄養士対応健康教育 実施内容・参加者数（成人関係）

(人)

団体名	内 容	参加者数
小牧高校保健委員	高校生の今知ってほしい食生活・栄養のバランスについて	45
保健連絡員Eグループ学習会	やさいを食べよう！減塩しよう！	31
シニアカフェ	フレイルと食事からのフレイル予防	11
生涯骨太クッキング教室	健康な骨を維持しよう！	10
陶地区カフェ	フレイルと食事からのフレイル予防	17
計		114

(3) 職域健康教育

ア スタッフ

保健師

イ 実施内容・参加者数

(人)

団体名	内 容	参加者数
リサイクルプラザ	職場の精神衛生について	19
小牧市民文化財団	①歯周病予防「お口の健康を守るために」 ②健康診断結果の見方「健診結果から自分の体を知ろう！」	20
上下水道部	職員の健康診断の結果から見る健康チェックについて	9
計		48

(4) 出前講座（国保協力事業）

ア 目 的 転倒予防・認知症予防・おくちの健康・栄養、フレイル予防などについての知識や日常生活の中で実施できる体操などを日頃集まる場（地区老人クラブ等）で知

ってもらい、要介護状態になることを予防する。

また、生活習慣病や体力低下を予防し、市民が健康づくりをするためのきっかけをつくることや、疾患に対する理解を促し予防行動につなげることや、自己肯定感を育み、市民が心身ともに健やかに過ごすためのきっかけとなることを目的とする。

イ 対 象 小牧市内の老人クラブの会員、保健連絡員活動、地域3あい事業の出前講座等、地区からの団体申し込み

ウ コース名・内容・講師

コース名	内容	講師
防ごう 誤嚥性肺炎！これであなたも歯合わせ講座	【講話】誤嚥性肺炎を予防するポイントなど 【実技】顔の筋トレ、健口体操など	歯科衛生士
転ばぬ先の転倒予防教室	【講話】「日常生活における転倒予防とは」など 【実技】転びにくい体づくりのための体操など	運動指導士 及び看護師
正しいラジオ体操教室	【講話】ラジオ体操の正しい方法について 【実技】実技指導、ストレッチ、みんなの体操指導など	体操指導員
めざせ！健康長寿～今からできること～	【講話】介護予防・フレイル予防の紹介 【実技】介護予防・フレイル予防の体操など	保健師
人生100年時代の食べるを知ろう！～お家でできる簡単フレイル講座～	【講話】「健康寿命をのばすためにフレイルを予防しよう」 【実技】BMIチェック、11種のバランスチェック、今晚のメニューを考えよう	管理栄養士
オトナ女子の更年期講座	【講話】更年期について 【実技】体操など	N P O 法人 ちえぶら
女性の健康講座～骨盤底筋エクササイズ～	【実技】出産や加齢による腹圧性の尿漏れ予防に効果的なエクササイズ	N P O 法人 ちえぶら

エ 実施回数・参加人数

(人)

コース名	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)
転ばぬ先の転倒予防教室	5	94	5	101	3	43
笑う門には福来る！ 楽しく歯あわせ講座			6	117	0	0
正しいラジオ体操教室	6	117	3	62	4	64
めざせ！健康長寿～今からできること～	5	115	2	43	2	25
人生100年時代の食べる を知ろう！～お家ででき る簡単フレイル講座～	4	68	10	267		
ピンクリボン講座 ～乳がんセルフチェック～			0	0	0	0
育てよう！自己肯定感			0	0	0	0
防ごう 誤嚥性肺炎！こ れであなたも歯合わせ講 座	12	321				
オトナ女子の更年期講座	5	113				
女性の健康講座～骨盤底 筋エクササイズ～	7	143				
計	44	971	26	590	9	132

(5) 自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）

ア 目 的 自分の食生活を見直し、生涯にわたり健康でいきいきとした生活を送ることができるように、望ましい食生活について、講義、実習の両面から学ぶ。そして、市民自らが、家族、地域、職場の人々、社会全体の健康づくりへと寄与できることを目的とする。また講座終了

者は、小牧市食生活改善協議会に加入し、食生活改善協議会員（ヘルスマイト）として小牧市内で食のボランティア活動に携わることができる。

イ 対 象 市民 15 人

ウ スタッフ 管理栄養士

エ 実施内容・参加者数 (人)

回	実 施 日	内 容	参加者数
1	10月6日(金)	開講式 オリエンテーション 講話「小牧の健康状況について」 講師：保健師 「自分・家族の食を見直そう」 「食品成分表の使い方を知って、栄養価を計算しよう」	9
2	11月10日(金)	講話「生活習慣病予防の食生活について知ろう」 「食事バランスガイドについて知ろう」 調理実習「バランスのとれた食事を作ろう」	8
3	12月1日(金)	実習「手軽にできる運動に挑戦しよう」 講師：保健師 講話「食事からのフレイル予防について知ろう」	8
4	1月12日(金)	講話「食中毒を予防し、おいしく安全に食べよう」 調理実習「フレイル予防の食事を作ろう」	6
5	2月2日(金)	講話「減塩の工夫で家族の健康を守ろう」 調理実習「減塩のコツを知ろう」	6
6	3月1日(金)	講話「小牧市の健康を取り巻く現状について」 グループワーク「私たちのまちは私たちの手で～私のまちの食の姿と私のできること、みんなでできること～」 ヘルスマイトの紹介 修了証書授与	8
計			45

オ 食生活改善協議会員（ヘルスマイト）活動開始者数 5人

(講座修了者は食生活改善協議会員として活動できる)

9 健康相談事業

(1) 医師健康相談

人(回)

実施日時	場 所	実 施 内 容	参加者数(開催回数)		
			令和5年	令和4年	令和3年
毎週月曜日 9時～11時45分 13時～14時15分 毎週水曜日 9時～11時15分 (第3水曜のみ9時30分～11時15分)	保健センター (第3水曜のみ 東部市民センター)	・病気に関する相談 ・健診結果の説明 ・治療等に関する相談 等	12 (95)	20 (96)	33 (91)

ア 目 的

気になる症状があるが、病院へは行きづらい方や、病気についての相談を希望する方に、自分の健康に関して医師の相談を実施し、自らの健康を振り返り、健康に関する意識を高める機会とする。

イ 対 象

健康に関して、医師へ何らかの相談を希望する市民

(2) 保健師等健康相談

人(回)

実施日時	場 所	実 施 内 容	参加者数(開催回数)		
			令和5年	令和4年	令和3年
毎週月曜日 9時～11時45分	保健センター	・健康に不安のある方の運動・食事等の日常生活相談 ・血圧測定・尿検査の実施	153 (46)	175 (46)	176 (45)
毎月第3火曜日 9時30分～11時15分	味岡市民センター		8 (11)	15 (11)	8 (12)
毎月第3水曜日 9時30分～11時15分	東部市民センター		4 (11)	5 (12)	5 (12)
計			165 (68)	195 (69)	189 (69)

ア 目 的

病気の有無にかかわらず、自らの健康を保持・増進し、生活習慣病を予防し、健康を守っていく事ができるよう意識を高める。

イ　対　象

市民

(3) 保健師・管理栄養士による生活習慣病予防相談

人(回)

実施日時	場　所	実　施　内　容	参加者数(開催回数)		
			令和5年	令和4年	令和3年
毎週月曜日 9時30分～12時 13時30分～16時	保健センター	生活習慣、食事記録をもとにした 具体的な生活習慣の相談	64 (43)	65 (44)	32 (46)

ア　目　的

- ・自分の健康に対する知識や、各種生活習慣病に対する知識を深めることができる。
- ・何らかの生活習慣病を持ちながらも、元気で、自己実現のできる生活ができるよう健康を生活の重要な条件として認識する事ができる。
- ・自分の健康状態を振り返り、積極的に日常生活や、食生活、運動習慣を見直し、今後の生活につなげていける機会とする事ができる。

イ　対　象

- ・健康状態を振り返り、積極的に日常生活や食生活・運動習慣を見直したい方及びその家族
- ・骨粗しょう症検診で、要指導・要精検となった方及びその家族
- ・病気などにより日常生活の改善が必要な方及びその家族

ウ　相談来所きっかけ

(人)

医師からの紹介	健診結果より	一般相談より	教室等での紹介	広報・チラシ	継続の方	その他
13	40	1	0	0	4	2

エ 相談内容内訳（相談内容は再掲、重複あり）

(件)

相談内容	糖尿病	高血圧	脂質異常症	肥満	骨粗しょう症	食事一般	その他
相談件数	50	2	13	3	2	3	0

(4) 精神保健福祉士による心の健康相談

(件)

相談場	年齢区分				性別	本人	施設	相談内容（重複有）								合計											
	小	中	19歳以上	61歳以上		男	女	社会的問題	精神的問題	薬物	心	うつ	うつ・不適応	精神疾患	アルコール	薬物	うつ	うつ・不適応	その他（無数記）								
面接	0	0	小1	18	4	0	13	10	13	10	0	0	2	22	0	0	2	3	0	8	2	1	1	2	2	23	
電話	0	0	中1	20	53	1	13	62	67	8	0	0	1	69	1	1	2	0	0	54	48	0	0	0	10	4	75
訪問	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	

10 訪問指導

(1) 健康増進法に基づく訪問指導

ア 目 的

生活習慣病予防・介護を要する状態になることの予防に関する指導や、療養上保健指導が必要であると認められる者及びその家族に対して保健師等が訪問し、健康に関する問題を総合的に把握し必要な指導を行い、これらの者の心身機能低下の予防と健康の保持増進を図ることを目的とする。

イ 対 象

40歳以上 65歳未満の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法 (人)

内 容	令和5年度	令和4年度	令和3年度
県関係機関より	0	0	0
医療関係より	0	0	1
福祉関係より	0	0	0
本人・介護者・家族からの依頼	0	1	2
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	0	1
保健センター事業より	0	0	0
前年度から継続	0	1	0
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	0	1	1
その他	0	0	0
計	0	3	5

(イ) 被指導人員 (人)

内 容	実人員	延人員
生活習慣病要指導者等	0	0
閉じこもり予防	0	0
認知症の者	0	0
精神的支援	0	0
その他	0	0
計	0	0

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

- ・訪問延件数 0 件
- ・訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいづくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	0
家族間調整	0
就労	0
日常生活	0
各種制度	0
受療・医療	0
苦情	0
傾聴	0
自殺	0
その他	0

※重複記載あり

(イ) 管理栄養士による訪問

- ・訪問件数 0 件

(2) その他訪問指導

ア 目 的

保健センターへの来所が困難な場合や家庭での状況を確認した上で指導が必要な場合、あるいは家庭での指導が適切な場合等に訪問し相談、指導を行う。

イ 対 象

前述の健康増進法等の訪問対象以外の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法 (人)

内 容	令和5年度	令和4年度	令和3年度
県関係機関より	0	0	0
医療関係より	0	0	0
行政関係より	2	0	1
本人・介護者・家族からの依頼	2	0	2
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	0	3
保健センター事業より	0	1	3
前年度から継続	2	4	1
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	1	0	1
その他	0	1	0
計	7	6	11

(イ) 被指導人員 (人)

内 容	実人員		延人員	
	40歳未満 (再掲)	65歳以上 (再掲)	40歳未満 (再掲)	65歳以上 (再掲)
生活習慣病要指導者等	1	0	1	1
閉じこもり予防	0	0	0	0
介護予防事業	1	0	1	2
認知症の者	0	0	0	0
精神的支援	4	2	2	5
その他	0	0	0	0
計	6	2	4	5

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

- ・訪問延件数 10 件

- ・訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいづくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	1
家族間調整	0
就労	0
日常生活	7
各種制度	2
受療・医療	5
苦情	0
傾聴	6
自殺	0
その他	0

※重複記載あり

(イ) 管理栄養士による訪問

- ・訪問件数 0 件

11 ヤング健診

(1) 目的

健康と毎日の生活習慣を振り返るきっかけとして、若い頃からの健診及び指導を受ける機会を提供して生活習慣病の予防につなげる。

生活習慣から起因する疾病の予防に向け、生活習慣病と密接に関係する内臓脂肪に着目した血液検査を取り入れた健診を行い、ハイリスク者に対し自覚症状がなくても数字により生活習慣の変容につながるような動機付けができ、これにより糖尿病等の生活習慣病発生予防や重症化防止の支援を行う。

(2) 対象

- ① 小牧市に住民登録のある 35 歳から 39 歳の方で、事業所等で健診を受ける機会のない方
- ② 昨年度ヤング健診受診者のうち動機付け・積極的支援に該当した方
(14 人)

(3) 実施日時

日 に ち：8 月 21 日（月）、9 月 19 日（火）、11 月 2 日（木）、12 月 16 日（土）
時 間：午前 9 時 30 分～12 時

(4) 会場

保健センター、ラピオ、勤労センター

(5) 実施内容

身体計測（身長・体重・腹囲測定）、血圧測定、尿検査、血液検査（脂質検査・血糖検査・貧血検査）、医師診察、生活習慣及び歯科に関する保健指導

(6) スタッフ

医師、保健師、看護師、歯科衛生士、事務員

(7) 受診結果概要

ア 受診者数 (人)

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
35 歳	36	29	87
36 歳～39 歳	149	136	120
総受診者数	185	165	207

イ 健診結果による階層化

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
情報提供 レベル	164 人 (88.5%)	146 人 (88.5%)	188 人 (90.8%)
動機付け支援 レベル	11 人 (5.9%)	12 人 (7.3%)	13 人 (6.3%)
積極的支援 レベル	10 人 (5.4%)	7 人 (4.2%)	4 人 (1.9%)
判定不能			2 人 (1.0%)

ウ 階層化による各レベルにおける内訳

(ア) 情報提供 レベル 164 人 (男性 35 人 女性 129 人)

身体計測内訳 (人)

男性	・腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	3
	・腹囲 85cm 以上ののみのチェック	3
	・BMI25 以上ののみのチェック	1
女性	・腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	8
	・腹囲 90cm 以上ののみのチェック	0
	・BMI25 以上ののみのチェック	7

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	3	4
拡張期血圧	高値	2	1
空腹時血糖値	高値	5	2
HbA1c	高値	9	26
中性脂肪	高値	5	3
HDLコレステロール	低値	1	0

(イ) 動機付け支援レベル 11人 (男性8人 女性3人)

身体計測内訳

(人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	5
	腹囲 85cm 以上ののみのチェック	3
	BMI25 以上ののみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	2
	腹囲 90cm 以上ののみのチェック	0
	BMI25 以上ののみのチェック	1

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	3	1
拡張期血圧	高値	1	1
空腹時血糖値	高値	0	1
HbA1c	高値	2	2
中性脂肪	高値	3	1
HDLコレステロール	低値	2	0

(ウ) 積極的支援レベル 10人（男性6人 女性4人）

身体計測内訳

男性	腹囲85cm以上+BMI25以上のチェック	5
	腹囲85cm以上ののみのチェック	0
	BMI25以上ののみのチェック	1
女性	腹囲90cm以上+BMI25以上のチェック	3
	腹囲90cm以上ののみのチェック	0
	BMI25以上ののみのチェック	1

検査項目基準値外内訳 (人)

検査項目	男性	女性
収縮期血圧 高値	4	1
拡張期血圧 高値	2	1
空腹時血糖値 高値	2	3
HbA1c 高値	2	1
中性脂肪 高値	6	4
HDLコレステロール 低値	3	3

(8) ヤング健診後の保健指導状況

ア 個別面接状況

ヤング健診受診者 185人中 147人(男性39人、女性108人)と面接(79.5%)

うち 栄養相談 78人

イ 動機付け、積極的支援対象者への処遇

動機付け支援対象者(男性8人 女性3人) (人)

処遇	男性	女性
結果説明会当日指導にて終了	7	3
管理栄養士による当日相談利用	6	2
資料送付にて終了	1	0

積極的支援対象者(男性 6 人 女性 4 人) (人)

処 遇	男 性	女 性
結果説明会当日指導にて終了	5	2
管理栄養士による当日相談利用	5	3
資料送付にて終了	1	0
電話による相談利用	0	2

※複数選択あり

12 地域支援事業 一般介護予防事業

(1) 介護予防普及啓発事業

ア 知って得する若返り講座

(ア) 目的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、その予防に向けた正しい知識を普及啓発し、市民一人一人がフレイル予防の大切さを認識し、自分ごととして行動に移すことができるよう促し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

【ねらい】

参加された人が、フレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識を、個人や地域での活動の中で活かすことができる。

(イ) 対象者

概ね 60 歳以上で市内在住の方

(ウ) スタッフ

歯科衛生士 体操指導員

(エ) 内容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会場

ラピオ

サンビレッジ（社会福祉法人 あいち清光会）

東部市民センター

(カ) 実施状況 参加者数 (延べ)

(人)

会場	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	内 訳	合 計
ラピオ	19	17	8	17	15	11	13	7	15	10	8	12	152	
サンビレ ッジ	-	-	-	5	-	-	-	-	5	-	-	-	10	177
東部市民 センター	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	4	-	15	

イ アクティブラジニア応援セミナー

(ア) 目的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、元気なうちから予防に向けた正しい知識を普及啓発し、その人らしい健康づくりを応援し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

【ねらい】

参加された人が、フレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識が自分自身の健康生活のヒントになり、自分らしい生活に活かすことができる。

(イ) 対象者

概ね 50 歳以上の市民

(ウ) スタッフ

歯科衛生士 体操指導員

(エ) 内容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会場

ラピオ 2 階 ワクティブこまき

(カ) 実施状況 参加者数（延べ） (人)

開催日	参加人数
6月27日	7
11月28日	3

ウ 健康づくり応援隊★認定講座

(ア) 目的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、元気なうちから予防に向けた正しい知識を普及啓発し、いつまでも元気に市民活動に参加し、生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

【ねらい】

参加された人が、フレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識を各々の市民活動の中で活かして健康づくりに取り組み、市民活動団体のメンバーが元気に活動を続けることができる。

(イ) 対象者

市民活動団体の代表者

(ウ) スタッフ

歯科衛生士 体操指導員

(エ) 内容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会場

ラピオ2階 ワクティブこまき

(カ) 実施状況 参加者数（延べ） (人)

開催日	参加人数
8月29日	17
1月30日	10

エ 筋力アップのためのトレーニングマシン講習会

(ア) 目的

高齢者にとって身近な老人福祉センターにおいて、高齢者自身が安全に効果的にトレーニングマシンを利用し、筋力特に下肢筋力の向上に向けて取り組むことができるよう支援する。

(イ) 対象者

小牧市在住の60歳以上の方

(ウ) スタッフ

健康運動指導士

(エ) 内容

- ・筋力アップトレーニングやストレッチの必要性を伝える。
- ・トレーニングマシンの正しく安全で効果的な使用方法を指導する。

(オ) 会場

第一老人福祉センター 野口の郷 機能回復訓練室

第二老人福祉センター 小針の郷 機能回復訓練室

第三老人福祉センター 田県の郷 機能回復訓練室

(カ) 実施状況 実施回数・参加者数（延べ）

野口の郷 12回

小針の郷 12回

田県の郷 6回

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	総 計
野口の郷	20	15	15	20	20	20	30	15	15	30	35	25	260	577
小針の郷	15	2	15	12	15	15	15	8	10	15	25	15	162	
田県の郷	/	/	/	/	/	/	20	15	15	35	35	35	155	

(キ) 事業に対する反応

○参加者からの声

- ・トレーニングマシンの使い方をしっかり教えてくれるので有難い。
- ・自己流でやっていたので、教えてもらえてよかったです。

○スタッフより

- ・他の事業で勧められ初めて参加された方が継続的に取り組んでくれている。
- ・正しい使い方をすれば、筋力維持・向上にとても効果があるので、多くの方にトレーニングマシンを使ってほしい。

オ おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室

(ア) 目的

サロンに参加される対象に応じて、低栄養予防についてのミニ講話をったり、低栄養予防に関する相談に応じることにより、低栄養予防に関する正しい知識の普及啓発を行う。

(イ) 対象

市内のふれあいきいきサロンの参加者

(ウ) 講師

管理栄養士

(エ) 内容

低栄養を予防する食事についての講話と簡易栄養相談を「おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室」として実施。

(オ) 実施場所

各サロン実施の会館等

(カ) 実施状況

依頼なし

力 まちかど運動教室

(ア) 目的

自身の健康づくりや地域の健康づくりにつなげるために、フレイル予防に関する知識の普及啓発を促し、自らの健康状態を知ったうえで自分にあった健康づくりを継続して実施できるようにする。また、教室を通じて学んだ内容を地域への普及啓発に活かせるよう、ボランティアリーダー認定制度を設け、意識的に健康づくりの普及を行える人材を発掘する。

(イ) 対象

健康づくり編：65歳以上の要介護認定を受けていない方、もしくは64歳未満の方で地域の健康づくりに興味がある方、運動に支障がない方、健康づくりについて学びたい方

フレイル予防編：介護予防把握事業や令和4年度健康診査の結果から、身体的フレイルリスクがある方

(ウ) スタッフ

運動トレーナー、管理栄養士ほか

(エ) 内容

測定器等を用いて筋肉量等、自身の体の状態を知るとともに、運動や栄養、口腔、認知等におけるフレイル予防に関する講話を実施。個々のフレイル予防につなげるとともに、そこで得た知識を地域へ還元していくよう、希望者については別途講習会を受けることでボランティアとして活躍する際に活用できる認定証を交付する。健康づくり編では、より地域へ目を向けてもらえるような働きかけを行い、フレイル予防編では、現在の状態の維持改善に向けた働きかけを行う。

(オ) 参加者数

(人)

	実施回数		参加者数 (実人数)		参加者数 (延人数)	
	(健康づくり編)	(フレイル予防編)	(健康づくり編)	(フレイル予防編)	(健康づくり編)	(フレイル予防編)
南部	6	6	20	11	111	58
中部	6	6	17	11	86	59
西部	6	6	16	6	82	32
味岡	6	6	26	14	143	74
東部	6	6	23	15	125	83
北里	6	6	10	9	56	45
計	36	36	112	66	603	351

ボランティアリーダー認定講習会参加者：40名

キ 住友理工フレイルチェック測定会

(ア) 目的

住友理工株式会社が開発したフレイルチェックシステムを用いて、フレイルチェックを行う機会を設けることで、自身の今の健康状態を知るきっかけとする。

(イ) 対象

60歳以上の市民

(ウ) 内容

身体計測、問診、体組成測定、握力、5m歩行速度、3mTUG、クロステスト（足圧測定）、フィードバック

(エ) 参加者数／回数

154人／10回

(2) フレイルハイリスク者重症化予防相談

ア フレイル改善個別相談

(ア) 目的

加齢とともに心身の機能が低下し、要介護に陥る危険性の高い状態にある高齢者が、口腔、栄養、運動の3分野において、各専門職による個々の状態に応じた支援を受けることで、フレイル改善に向けた取り組みを行い、住み慣れた地域でいつまでもいきいきとした生活を送ることができる。

- ① 個々の状態に応じた個別相談を通して、フレイル改善のための取り組み方法を知り、行動変容ができる。
- ② 通いの場に出向いたり、楽しみを見つけたり、他者とのつながりを持つことができる。

(イ) 方法

運動、栄養、口腔の3分野において、健康運動指導士もしくは理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士による個別相談（必要に応じて2～3人グループ対応）を行い、行動変容を促す。地区担当保健師は概ね1か月後に、本人のフレイル改善に向けた取組み状況を電話などで確認し、必要に応じて再度個別相談につなぐ。また、個々の状態に合った通いの場を紹介するなど、適切な支援につなげる。

(ウ) 対象

保健師等の専門職より、個別相談が必要と判断された概ね 60 歳以上の方

分野	判断基準
運動	<ul style="list-style-type: none">・ひざや腰に痛みを感じる（医師より運動の許可がある）・うでや肩に痛みを感じる（医師より運動の許可がある）・ペットボトルのキャップが開けにくくなつた・10 分以上継続して歩くことができない・以前と比べて歩く速度が遅くなつてきた・週に 2 回以上体を動かしていない
栄養と 口腔	<ul style="list-style-type: none">・体重減少（6 か月間で 2～3 kg 以上）・固いものが食べにくくなつた・水や汁物でむせることが多くなつた・家族や友人から聞き取りにくいと言われるようになった

(エ) 対象の把握経路

- ・後期高齢者健康診査を実施している医療機関より把握
- ・高齢者の集う場（サロン等）において実施されるフレイルチェックや地域住民（保健連絡員等）を通して保健師等が把握
- ・介護予防実態把握事業において地域包括支援センターより把握
- ・国民健康保険加入者のうちレセプトより把握

(オ) 名称

- 「フレイル改善個別運動相談」
- 「フレイル改善個別栄養相談」
- 「フレイル改善個別歯科相談」

(カ) スタッフ

- 「運動」 健康運動指導士もしくは理学療法士 1 名
- 「栄養」 管理栄養士 1 名
- 「口腔」 歯科衛生士 1 名

(キ) 内容

【3分野共通】

- 心身機能の状態について本人の気づきを促し、フレイル改善の取り組みのきっかけになるよう、その状態の改善に向けた相談、情報提供を行う。
→本人の気づきを促すため、相談時にミニ測定を実施し、個々の状態に応じた個別相談を実施する。
- 自宅でも取り組めるように資料を配布する。
- 通いの場の紹介

(ク) 実施状況

分野別の実施人数 (人)

月	運動	栄養	口腔
7	5	1	6
8	0	2	0
9	6	5	6
10	4	5	6
11	6	6	5
12	7	7	9
1	12	8	10
2	8	7	6
3	1	1	2
合計	49	42	50
全体		141	

会場・分野別の参加人数

(人)

	運動	栄養	口腔	合計
野口の郷（老人福祉センター）	18	14	17	49
小針の郷（老人福祉センター）	22	19	23	64
田県の郷（老人福祉センター）	9	9	10	28
合計	49	42	50	141

(ケ) 事業に対する反応

○参加者からの声

- ・自分の体の状態について知ることができた。
- ・体が弱らないための方法について、わかりやすい説明があり、よかったです。

○スタッフより

- ・自分の状態について気づいていない方も多いので、まずは自分の状態を知り、改善に向けた取り組みをしてほしい。

(3) 地域介護予防活動支援事業

ア 目的

専門職が介護予防に必要な知識や技術を提供することにより、介護予防の場を運営する地域団体が、介護予防への取組みができる。

イ 事業内容

介護予防に関するボランティア等の人材を育成するための指導
介護予防に資する地域活動組織の育成・支援

ウ 支援方法

ボランティアが主となり、介護予防の場を運営していくよう支援していく。

保健センターからスタッフが出向、実際の場面を通してどのように

対処したらよいか伝えていく。

また、カンファレンスを通して実際の場面を振り返る機会を設ける。

エ スタッフ

保健師、看護師

オ グループ活動

(ア) グループ活動の目的

高齢や病気のため体に不自由が生じ、気持ちがなかなか外に向かず、1人では外出しづらくなり、閉じこもりがちな方が集まる場を作り、介護予防に向けた取り組みを行う。

(イ) グループの詳細

a 介護予防サポート ももの会

(a) 対象地区 篠岡地域

(b) 日時 每月第1・第3金曜日(月2回)

午前9時30分～午後3時30分

全24回 ボランティア会議1回

(c) 内容 体操、ゲーム、レクリエーション、バスハイク、読み聞かせ、創作活動等

(d) メンバー 及び 利用者 (人)

	実人数	延べ人数
ボランティア (保健連絡員、保健連絡員OB)	18	269
利用者	7	130

13 第2次健康日本21こまき計画 健康こまきいきいきプランの推進

(1) 目的

生活習慣の改善による健康の増進と疾病の発病を予防する「一次予防」に重点をおき健康寿命を延伸させるために、「健康こまき いきいきプラン」を策定し、市民が生涯にわたって、健康でいきいきと暮らしていくよう、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むとともに、家庭、地域、社会全体で支援する環境づくりを推進する。

(2) 対象 市民

(3) 小牧市民健康づくり推進協議会推進部会各部会における取組み内容

部会名	令和5年度取組み内容
栄養・食生活	<p>①食育だよりについて紙媒体を、小学校5年生対象に夏休み前に配布。R6年度以降の実施においてはICT教育の活用を図るため、児童向けにロイロノート、保護者向けにTETORUを利用しデータ配布をするよう検討、校長会での周知を行ったが、令和6年度以降も紙媒体での配布となった。また、配布対象の見直しを検討した。学習指導要領に合わせ、バランスのとれた食事を知り、自分で献立をたてる授業での活用を目指し小学6年生を対象に10月ごろの配布と決定した。</p> <p>②簡単お食事ガイドについて、生活習慣病予防相談、ヤング健診結果説明会などで活用をスタートした。今後は市ホームページ、健康経営ホームページ等へ掲載し、より多くの市民へ周知していく。</p> <p>③ヘルシーメニューの応募はホームページ上を使用して継続的に行っているが、応募はない。今後は「健康的な食事」の知識の普及啓発を行い、その情報を参考にしたメニューを提供する店舗を増やし、市民が外食をする際に自然に健康になれる食事のモデルケースとなることを目標とする。</p> <p>④クックパッドに小牧市公式キッチンを公開。ヘルスマイト考案メニューのほか、小牧市生活改善実行グループのレシピが掲載されている。今後、学校栄養士、保健センター栄養士などもレシピを提供、拡充を目指す。</p>

身体活動 ・運動	<p>①親子で健康づくりに役立ててもらうため「親子で楽しめる遊び場マップ」をより多くの方に知ってもらえるよう、1歳6か月児健診や親子教室などで配布した。また、ケーブルテレビ「小牧市市政だより」で放映し、動画配信した。</p> <p>②ホームページを活用した取り組みとしては、厚生労働省が推奨する「プラス10」を取り上げ、日常生活における身体活動量の増加につながるよう「おうちde子どもと一緒に」「地域」「家事・生活の中」「仕事・通勤中」の4つの場面ごとに具体例を掲載した。</p> <p>③多世代交流プラザのスペースを活用した取り組みを進めた。厚生労働省が推奨する「プラス10」の取り組みが身近な場所で行えるようナッジ理論を活用した環境づくりのため、壁に背伸びやスクワット、かかと上げの影絵を貼る、親子で体を使った遊びの紹介など、思わずやってみたくなるような仕掛けを設置した。また、階段利用促進のためのポスターを掲示した。</p>
休養・ こころの 健康	<p>①ゲートキーパー養成講座を昨年度に引き続き、保健連絡員、職員を対象に実施した。また、2月4日に市民向けのゲートキーパー養成講座(講演会)を開催し、広くゲートキーパーの必要性について周知した。</p> <p>②日常の悩みやストレスを抱えた本人が相談先を知るためのツールとして、また、相談された方を適切な機関につなぎ、問題解決につながるよう関係機関の連携を図るため、関係機関に対し「こころの相談窓口パンフレット」を配布した。</p> <p>市ホームページ、市公式SNSを活用し、こころの健康および相談先を周知した。</p> <p>自殺予防週間および自殺対策強化月間にあわせてポスター掲示及び啓発グッズを配布した。また、図書館と連携し、デジタルサイネージを活用した予防啓発や、自殺対策に関連した書籍を集めた図書コーナーを設け、普及啓発を積極的に行った。</p> <p>③ワークライフバランスの実現に関することとして、大学生に対して「ワークライフバランス」に関するアンケートを実施するため、アンケートの内容を検討した。</p>

たばこ・アルコール	<p>①喫煙者に受動喫煙への配慮を啓発する方法について引き続き検討した。また、中学生へのがん教育が始まり、内容に喫煙の害及び受動喫煙の害について取り入れ、生徒自身が自分の体を守ることや家族との会話の中で受動喫煙について話をするきっかけを提供した。</p> <p>②市ホームページに COPD に関する記事を掲載。COPD デーには SNS での周知啓発を行った。部会で作成したポスターについても引き続き活用し、今後は職域へと活用を促せないか検討していく。また、喀痰検査（肺がん検診）受診者へ愛知県作成の COPD 普及啓発リーフレットを配布した。</p> <p>③楽しみながらほどほどに飲酒をするためのコツについて周知啓発方法を検討した。</p>
歯の健康	<p>①子どもの歯・口腔の健康づくりに関する環境整備の一環として、市内児童館職員や保育園、学校関係者等に対し、研修会を開催。</p> <p>②市内保育園で実施する歯みがきやフッ化物洗口などの取組の再開に向けた調整を行い、子どもの歯・口腔の健康づくりに向けた取組に繋げる働きかけを実施。</p> <p>③大学と連携し、園児のう蝕予防に関する取組を市内 2 つの保育園で実施。</p> <p>④市内 15 の小学校において、小学 4 年生を対象とした歯みがき指導を実施。</p> <p>⑤学校における給食後の歯みがきの実施に向け、校長会及び保健主事会で講話を実施。</p> <p>⑥学童期の歯肉炎予防に関する取組として、これに関するリーフレットを小学 4 年生を対象に配布した。</p> <p>⑦小中学生のう蝕及び歯周病の予防に関する取組として、企業との協働による歯科講話を実施。</p> <p>⑧オーラルフレイルの早期発見・早期治療に向けた具体的な方策について検討を行い、事業の拡充に向けた取組を実施。</p> <p>⑨壮年期・高齢期の歯科疾患の予防及び早期発見の一環として実施する口腔がん検診の拡充に向けた検討を実施。</p>

(4) 重点施策関連取組み内容

① 地域で支える健康づくりの推進

- ・まちかど運動教室（健康づくり編）の参加者からボランティアリーダー認定講習会へ参加を促し、地域で活躍している介護予防推進リーダーの養成や、住友理工フレイルチェック測定会の測定員養成につなげ、地域での活動の場を提供。
- ・ワクティブこまきでの総合相談における地域ボランティアマッチングの実施。

② 働く世代の健診・検診受診率の向上

- ・協会けんぽと連携し、健康宣言事業所数増加に向けた取組みを実施。
- ・健康いきいきポイント事業の推進。
- ・小牧市役所における健康経営の推進。

③ 生活習慣病予防及び糖尿病重症化予防

- ・市ホームページの充実。
- ・市民活動団体等による生活習慣病予防に係る活動の周知。
- ・今後の生活習慣病重症化予防に向けた取組みの検討。

④ 後期高齢者の虚弱（フレイル）予防

- ・高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施における介護予防把握事業を通した健康状態不明者への支援。まだら受診をされている方への個別通知による健診受診勧奨。健康診査の受診結果や介護予防把握事業によるフレイルリスク者の抽出と、その対象者への介護予防教室の実施。サロンにおけるフレイルチェックとまちかど運動教室によるポピュレーションアプローチ。

14 こまき健康いきいきポイント事業

(1) 目的

自分にあった健康づくりを、自ら目標を定め、楽しみながら継続していただくため、活動の励みやきっかけづくりとしてポイント事業を実施し、健康づくりに取組む世代・人口を拡大し、小牧市民の健康増進を図ることを目的とする。

(2) 事業概要

愛知県との協働事業。

「こまき健康いきいきポイント」パンフレットに掲載されている健康づくり（下記(4)のこまき健康いきいきポイント内容参照）を実施して、ポイントを1,000ポイント以上貯めるとあいち健康づくり応援カード（まいか）と地域限定商品券（1,000円分）と交換できる。

「まいか」を提示すると、愛知県内の健康づくり応援カード協力店から優待を受けることができる。

(3) ポイント交換対象

あいち健康づくり応援カード（まいか）：市民、市内在勤・在学者
地域限定商品券：中学生以上の小牧市民及び市内在勤・在学者

(4) こまき健康いきいきポイント内容

ア 健康づくりチャレンジ

毎日の自主目標の取組みでポイントを貯める

イ 健診・検診チャレンジ

がん検診や人間ドック、特定健診などを受けてポイントを貯める

ウ 参加チャレンジ

健康に関する講座やイベントに参加してポイントを貯める

エ ボーナスチャレンジ

小牧市ウォーキングアプリ alko の初回ダウンロードや、健康いきいきポイント制度の知人等への紹介を行い、ポイントを貯める

(5) 周知方法

広報、ホームページ、チラシ、ポスター、各事業でパンフレット配布

(6) パンフレット配布、まいか・地域限定商品券交換申込場所

市役所、保健センター、各市民センター、各コミュニティセンター、パークアリーナ小牧、まなび創造館、ホームページからの電子申請

(7) 実績

ア あいち健康づくり応援カード「まいか」及び地域限定商品券交換者
数 601人

イ 市内あいち健康づくり応援協力店舗数 39店舗 (R6.3.31時点)

(8) 子ども版こまき健康いきいきポイント事業

ア 目的

子ども：生活習慣が不規則になりがちな夏休みに、本事業を通して、親子で楽しみながら健康づくりに取組むことで、健やかな身体と心を育み、理想的な生活習慣の基盤をつくる。

保護者：健康づくりに時間を取りづらい子育て世代が、本事業を通して、子どもと一緒に楽しみながら健康づくりに取組むことで、自分自身の健康について振り返り、生活習慣の改善を図る。

イ 対象 市内小学校の小学生及びその保護者

ウ あいち健康づくり応援カード「まいか」交換及び記念品贈呈者数
230人

15 ウォーキングアプリ「alko」

(1) 目的

誰もが元気でいきいきと暮らすことができる市民総活躍社会を目指し、健康づくりに時間を取りづらい働く世代の方でも「歩く」ことを通し、手軽に健康づくりができる習慣を身に付けることができるよう、市独自のウォーキングアプリを開発・配信し、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

(2) 事業概要

- ・期間限定のチャレンジを達成してポイントをためたり、1日5,000歩で獲得できるポイントをため、地域限定商品券に交換できる。
- ・獲得ポイントに応じて期間限定でalkoカードを獲得でき、これを市内のalko応援協力店等で提示することで優待を受けることができる。
- ・期間限定のチャレンジを達成することで記念品を獲得することができる。

(3) 対象

スマートフォン用アプリ「alko」ダウンロード者

地域限定商品券：18歳以上の市民及び市外在住市内在勤者

(4) チャレンジ結果

チャレンジ名	種別	開催日	参加者数	達成者数	達成率
誰かと一緒にチャレンジ	個人	5/3～5/7	3,261	2,058	63%
文化・芸術力向上チャレンジ	個人	6/24～6/28	3,131	2,060	66%
献血推進チャレンジ	個人	7/15～7/17	2,834	1,755	62%
国保住建チャレンジ	個人	7/28～8/1	3,263	2,131	65%
マクドナルドチャレンジ	個人	8/19～8/23	3,794	2,242	59%
下水道の日チャレンジ	個人	9/10～9/14	3,318	2,087	63%
身体と地域の健康力向上チャレンジ	個人	10/11～10/20	3,437	2,380	69%
あいち県民の日チャレンジ	個人	11/21～11/27	4,018	2,795	70%
小牧・長久手の戦いチャレンジ	VRW	12/11～12/31	3,673	1,825	50%

文化・芸術力向上チャレンジ2	個人	2/9～2/13	2,926	1,791	61%
火の用心チャレンジ	個人	3/1～3/7	3,019	1,861	62%

(5) alko カード獲得者数

配信回数 (期間)	第1回	第2回	第3回
	(8月1日～31日)	(11月1日～30日)	(1月1日～31日)
獲得者数	4,918人	4,816人	4,531人

(6) 地域限定商品券交換者数

対象者	交換者数
市民	1,000P 1,023人
	2,000P 2,235人
市外在住市内在勤者	1,000P 97人

16 国民健康保険加入者における糖尿病性腎症重症化予防事業

(1) 医療未受診者における受診勧奨

ア 目 的

糖尿病および糖尿病性腎症の疑いがあるものの、未受診および外部委託による電話受診勧奨ができていないものに対して、保健師がその人の生活背景や信条を含めた包括的な情報収集およびアセスメントを行い、受診勧奨や生活指導を行うことで、対象者が今後も健康な生活を営むことが出来る。

イ 対 象 者

特定健診で下記の基準に該当し、かつ糖尿病および糖尿病性腎症の治療がない者・治療を中断した者のうち、昨年度の保険医療課における電話受診勧奨において連絡が取れない者

- 血 糖 HbA1c 6.5% 以上、または、空腹時血糖 126 mg/dl 以上
- 腎機能 尿たんぱく + 以上、または e-GFR 60ml/分 / 1.73 m² 未満

ウ 内 容

- (ア) 保険医療課より対象者にアンケート送付
- (イ) アンケートの結果をもとに、地区担当保健師が対象者へ架電し受診勧奨を行う
- (ウ) 電話がつながらない場合は訪問し、受診勧奨を行う

エ 実施結果

対象者数 2名

実施結果

アンケート返信数	
電話における受診勧奨または生活指導	1名
訪問における受診勧奨または生活指導	1名 (本人には会えず家族への指導)

※重複者有り